

令和2年度・3年度入学生 教育課程

科目名についた丸数字は週あたりの授業時間数です。
 枠内に2つ以上の科目名がある場合は科目を選択することになります。
 表の横軸は週あたりの授業時間数を表しています。

【普通科 普通】

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
第1学年		国語総合⑤					現代社会②	数学Ⅰ②	数学Ⅱ①	数学A②	化学基礎②	生物基礎②	体育③	保健①	芸術Ⅰ②	コミュニケーション英語Ⅰ③	英語表現Ⅰ②	家庭基礎②	社会と情報②															
	文科型	現代文B②	古典B③			世界史B③			日本史B③ 地理B③		数学Ⅱ③		数学B②	生物演習A②	地学基礎②	倫理② 芸術Ⅱ②	体育②	保健①	コミュニケーション英語Ⅱ④			英語表現Ⅱ②												
第2学年	理科型	現代文B②	古典B②	世界史A②	日本史A② 地理A②		数学Ⅱ③		数学Ⅲ① 数学演習1①	数学B②	物理基礎②	化学③	物理③ 生物③		体育②	保健①	コミュニケーション英語Ⅱ④			英語表現Ⅱ②														
	文科型	現代文B②	古典B③		政治経済探究④ 日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④ 上記科目から2科目選択 (日本史探究+地理探究は不可)					数学演習A④		生物演習A②	化学演習②/ 地学演習②	体育②	コミュニケーション英語Ⅲ④		英語表現Ⅱ②	数学演習B 生活コー データ 芸術Ⅲ 総合 芸術②																
第3学年	理科型	現代文B②	古典B②	倫理・政経④ 日本史B④ 世界史B④ 地理B④			数学Ⅲ⑤		数学演習2②		化学④	物理④ 生物④		体育②	コミュニケーション英語Ⅲ④		英語表現Ⅱ②																	
	文科型	現代文B②	古典B③		上記科目から2科目選択 (日本史探究+地理探究は不可)					数学Ⅲ⑤		数学演習1⑤	物理④ 生物④		体育②	コミュニケーション英語Ⅲ④		英語表現Ⅱ②																

1年の芸術Ⅰは「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」から1つ選択します。(国際コミュニケーションコースも同様)

【普通科 国際コミュニケーションコース】

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
第1学年		国語総合⑤					現代社会②	数学Ⅰ②	数学Ⅱ①	数学A②	化学基礎②	体育③	保健①	芸術Ⅰ②	コミュニケーション英語Ⅰ③	英語表現Ⅰ②	総合英語②	家庭基礎②	社会と情報②	総合的な探究															
	第2学年	現代文B②	古典B③		世界史B③		日本史B③ 地理B③		数学Ⅱ③		数学B②	生物基礎②	地学基礎②	体育②	保健①	コミュニケーション英語Ⅱ③		英語表現②	異文化理解①	フランス語② 中国語② 韓国・朝鮮語②	総合的な探究														
第3学年	α	現代文B②	古典B③		倫理・政経④ 日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④ 上記科目から2科目選択 (日本史探究+地理探究は不可)					数学演習A④		生物演習B②	化学演習② 地学演習②	体育②	英語理解④		英語表現②	異文化理解①	コミュニケーション②																
	β									フランス語② 中国語② 韓国・朝鮮語②	時事英語②	通訳演習②	英語演習② 総合芸術②																						

2年生国際コミュニケーションコースの「総合的な探求の時間」2単位のうち1単位は、修学旅行の期間等に授業時数を集中的に配当します。

年間指導計画表

教科・科目	国語・現代文B	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書 精選現代文B(東京書籍) 副教材 新版七訂 新訂総合国語便覧(第一学習社) 国語常識のトレーニング 国語便覧ワークノート(第一学習社) 頻度順 入試漢字の総練習(三省堂) イラストとネットワークで覚える 現代文単語(いづな書店) 問題集 現代文解法のテクニック3 三訂版(啓隆社) 現代文解法のテクニック4 三訂版(啓隆社) 評論速読トレーニング2000(数研出版) 小説速読トレーニング(数研出版) 共通テスト対策 実力養成重要問題演習 現代文(ラーンズ) 共通テスト対策 実力完成 直前演習(ラーンズ) 共通テスト 過去問研究 国語(教学社) 国公立二次過去問題選 現代文編(数研出版)(文系のみ) 現代文 記述問題攻略ノート 習得編(数研出版)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	授業態度 提出物 定期考査	20%
b. 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度 提出物 定期考査	
c. 書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度 提出物 定期考査	60%
d. 読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度 提出物 定期考査	
e. 知識・理解	言語文化及び言葉の特徴や決まりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。	授業態度 小テスト 提出物 定期考査	20%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
前期	4 5 6	6	評論『言語と記号』(丸山圭三郎) 言語記号の特殊性を理解し、筆者の述べる言語の不可思議さについて、本文の要旨をふまえ、正確に読み取る。	・具体例と主張との関連を意識し、要旨を的確にとらえる。 ・言語を「記号」という考え方で捉え直し、思考の枠組みを増やす。	○	○	○	○	○
		10	小説『舞姫』(森鷗外) 文語文で書かれた小説を読み、そこに描かれた内容を的確に理解して味わう。	・語句や美文調の文体に注意しながら内容をとらえ、描かれた人物、情景、心情などを読み味わう。 ・時代背景を理解した読みから、発展的な読解を行う。 時代背景をふまえて登場人物の言動・心理を読み取り、人間の生き方について考えを深める。	○	○	○	○	○
	1		第1回考査	○	○	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d	e
前期	7 8 9	4	評論「環境問題と孤立した個人」 (河野哲也) 近代思想の特質を捉え、現代社会が抱える環境問題についての理解、思索を深める。	・論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。 ・文章の構成や相互段落の関係を読み取りながら、筆者の主張や内容をとらえる。	○	○	○	○	○
		6	小説『檸檬』 (梶井基次郎) 新興芸術派と呼ばれた作家がもつ詩的感性から生み出される世界を読み味わう。	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、文学作品固有の面白さを味あわせる。 ・現代人の置かれている状況や、現代的な小説のテーマ(人間疎外、アイデンティティの喪失など)を、自己の問題として捉えさせる。	○	○	○	○	○
		6	評論「平氣一正岡子規」 (長谷川權) 他者や異文化世界についての文章を読み、さまざまな見方があることを知る。	・韻文と散文の融合した文章の読解を行う。 ・日本近代文学の流れを学習する。 ・創作と批評について考察する視点を養い、文学作品の鑑賞力を深める。	○	○	○	○	○
		1		第2回考査	○	○	○	○	○
後期	10 11 12	12	共通テスト過去問題演習 大学入試センター試験での実践的な力を身につける。	・共通テストの、過去問題や実践的な問題演習を通じ、読解力・設問の理解力・選択肢分析力などを身につける。 ・記述対策のための過去問題や実践的な問題演習を通じ、読解力・設問の理解力・記述解答作成力を身につける。 ・漢字・語句などの意味用法を理解し、文章の読解に役立てるとともに、近代以降の日本文学史の基本的な事項を理解する。	○	○	○	○	○
		4	記述対策演習 実践的な記述力を身につける。						
		1		第3回考査	○	○	○	○	○
	1 2	3	共通テスト対策演習 大共通テストでの実践的な力を身につける。	・共通テスト対策の、過去問題や実践的な問題演習を通じて、マーク式の問題に慣れ、速読力を身につけるとともに、評論・随筆・小説などの各ジャンルごとに、文章読解力・設問の理解力・選択肢分析力などを身につける。 ・記述式の過去問題や実践的な問題演習を通じ、読解力・設問の理解力・記述解答作成力を身につける。 ・漢字、語句などの意味用法を理解し、文章の読解に役立てるとともに、近代以降の日本文学史の基本的な事項を理解する。 ・進路希望の実現に向けて、これまで培ってきた総合的な国語力の完成をめざす。	○	○	○	○	○
		7	記述対策演習 実践的な記述力を身につける。						
				(第4回考査は実施しない)					
【その他】									

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d	e
前期	7 8 9	8	『蜻蛉日記』 「うつろひたる菊」 時代背景を理解し、作者の思想や感情を読み取る。	・既習の文法知識や基本古語の知識を解釈にいかす。 ・藤原摂関家のエピソードを把握するとともに、虚構と史実の接点に成り立つ文学性を味わう。	○			○	○
		8	『古文真宝』 「赤壁賦」 古代の史話を読んで、漢文に親しみをもち、登場人物の行動や心情を読み味わう。	・繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わう。 ・文章構成を把握し、「疑問」「反語」「受身」「抑揚」「仮定」などの句法を理解し、解釈にいかす。 ・比喩表現や対句表現など、修辞技法を理解する。 ・文章制作時の時代背景を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	○			○	○
		8	『源氏物語』 「心づくしの秋風に」 長編物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	・名文とされる文章を読み味わう。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・登場人物の行動や心情を読みとる。 ・平安時代の文化的背景を理解し、その時代に生きる作者のものの考え方や人生観を読みとる。	○			○	○
	1		第2回考査	○			○	○	
後期	10 11 12	16	共通テスト対策演習 大学入学共通テストでの実戦的な力を身につける。	・共通テスト対策のための、過去問題や実践的な問題演習を通じて、マーク式の問題に慣れ、速読力を身につけるとともに、評論・随筆・小説などの各ジャンルごとに、文章読解力・設問の理解力・選択肢分析力などを身につける。 ・記述対策のための過去問題や実践的な問題演習を通じ、読解力・設問の理解力・記述解答作成力を身につける。	○			○	○
		8	記述対策演習 記述力を身につける。	・漢字、語句などの意味用法を理解し、文章の読解に役立てるとともに、近代以降の日本文学史の基本的な事項を理解する。					
		1		第3回考査	○			○	○
	1 2 3	3	共通テスト対策演習 共通テストでの実戦的な力を身につける。	・共通テスト対策のための、過去問題や実践的な問題演習を通じて、マーク式の問題に慣れ、速読力を身につけるとともに、評論・随筆・小説などの各ジャンルごとに、文章読解力・設問の理解力・選択肢分析力などを身につける。 ・記述対策のための過去問題や実践的な問題演習を通じ、読解力・設問の理解力・記述解答作成力を身につける。	○			○	○
		12	記述対策演習 記述力を身につける。	・漢字、語句などの意味用法を理解し、文章の読解に役立てるとともに、近代以降の日本文学史の基本的な事項を理解する。 ・進路の実現に向けて、これまで培ってきた総合的な国語力の完成をめざす。					
			(第4回考査は実施しない)						

【その他】古典作品には、現代とは異なる文化や価値観の中で、人々がどのように生き、考えてきたのかが表れている。古典を学ぶ醍醐味は、古典作品を読むことで、その時代の人々の心情や価値観や味わうとともに、現代を生きる自分自身や日本人の価値観について深く考えることにある。また、現代と異なることばの仕組みや語彙などを知ること、面白みの一つである。充実した学びのために予習を心がけ、積極的な態度で授業に臨むこと。
共通テスト・二次試験対策及び記述力のアップをめざしての問題演習は、希望進路実現のためと意識を高く持ち、真剣且つ積極的に取り組むこと。

年間指導計画表

教科・科目	国語・古典B	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の読解に即して文語文法を学習し、日本や中国の優れた作品を読解・鑑賞をする力を育てる。 ・古文や漢文の学習を通じて、日本や中国の文化・伝統に対する関心や理解をはぐくむとともに、ものの見方や考え方を深める。
使用教科書・副教材等	<p>教科書 高等学校 古典B 古文編・漢文編(三省堂)</p> <p>副教材 新版七訂 新訂総合国語便覧(第一学習社)</p> <p>三訂新版 解釈のための必携古典文法(啓隆社)</p> <p>基礎から解釈へ 漢文必携 四訂版(桐原書店)</p> <p>三訂版 古文単語330(いづな書店)</p> <p>問題集 四訂版 力をつける古文 ステップ3(数研出版)</p> <p>改訂版 力をつける漢文 ステップ3(数研出版)</p> <p>古文助動詞・漢文句法マスターノート(数研出版)</p> <p>改訂版 古典文法習得のための敬語マスターノート(数研出版)</p> <p>共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 古典(ラーズ)</p> <p>共通テスト対策 実力完成 直前演習(ラーズ)</p> <p>共通テスト 過去問研究 国語(教学社)</p> <p>国公立二次過去問選 古典編(数研出版) (文系のみ)</p>

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	・授業態度 ・提出物	20%
b. 話す・聞く能力			
c. 書く能力			
d. 読む能力	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	・授業態度 ・提出物 ・定期考査	40%
e. 知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。	・授業態度 ・小テスト ・提出物 ・定期考査	40%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
前期	4 5 6	5	『和泉式部日記』 「夢よりもはかなき世の中を」 日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の修辞技巧を理解する。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・平安時代の文化的背景を理解し、その時代に生きる作者のものの考え方や感情を読みとる。 	○			○	○
		6	『唐宋八大家文読本』 「捕蛇者説」 中国の代表的な文章を読んで、作者の人生観・政治論を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・訓読の規則を確認し、音読することで漢詩の調子に慣れる。 ・「受身」「反語」などの句法を理解し、それに即して口語訳をする。 ・作品を通して作者の考え方を理解する。 	○			○	○
		5	『しのびね』 「嵯峨野わたり」 作り物語を読んで、登場人物の心情を理解し味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ・物語に描かれた場面や登場人物の心情を的確に捉える。 ・古典常識や文法事項を敬語を理解し、解釈、口語訳にいかす。 ・他の物語作品、伊勢物語や源氏物語などと読み比べ、日本文学の伝統的世界がどのように形作られていったのか、鑑賞を深める。 	○			○	○
	1		第1回考査	○			○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a			d	e
前期	7 8 9	8	『蜻蛉日記』 「うつろひたる菊」 時代背景を理解し、作者の思想や感情を読み取る。	・既習の文法知識や基本古語の知識を解釈にいかす。 ・藤原摂関家のエピソードを把握するとともに、虚構と史実の接点に成り立つ文学性を味わう。	○			○	○
		8	『古文真宝』 「赤壁賦」 古代の史話を読んで、漢文に親しみを持ち、登場人物の行動や心情を読み味わう。	・繰り返し音読し、漢文独特のリズムを味わう。 ・文章構成を把握し、「疑問」「反語」「受身」「抑揚」「假定」などの句法を理解し、解釈にいかす。 ・比喩表現や対句表現など、修辞技法を理解する。 ・文章制作時の時代背景を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	○			○	○
		1		第2回考査	○			○	○
後期	10 11 12	16	共通テスト対策演習 大学入学共通テストでの実戦的な力を身につける。	・共通テスト対策のための、過去問題や実践的な問題演習を通じて、マーク式の問題に慣れ、速読力を身につけるとともに、評論・随筆・小説などの各ジャンルごとに、文章読解力・設問の理解力・選択肢分析力などを身につける。 ・記述対策のための過去問題や実践的な問題演習を通じ、読解力・設問の理解力・記述解答作成力を身につける。 ・漢字、語句などの意味用法を理解し、文章の読解に役立てるとともに、近代以降の日本文学史の基本的な事項を理解する。	○			○	○
		1		第3回考査	○			○	○
	1 2 3	3	共通テスト対策演習 共通テストでの実戦的な力を身につける。	・共通テスト対策のための、過去問題や実践的な問題演習を通じて、マーク式の問題に慣れ、速読力を身につけるとともに、評論・随筆・小説などの各ジャンルごとに、文章読解力・設問の理解力・選択肢分析力などを身につける。 ・記述対策のための過去問題や実践的な問題演習を通じ、読解力・設問の理解力・記述解答作成力を身につける。	○			○	○
		7	記述対策演習 記述力を身につける。	・漢字、語句などの意味用法を理解し、文章の読解に役立てるとともに、近代以降の日本文学史の基本的な事項を理解する。 ・進路の実現に向けて、これまで培ってきた総合的な国語力の完成をめざす。					
				(第4回考査は実施しない)					
<p>【その他】古典作品には、現代とは異なる文化や価値観の中で、人々がどのように生き、考えてきたのかが表れている。古典を学ぶ醍醐味は、古典作品を読むことで、その時代の人々の心情や価値観やを味わうとともに、現代を生きる自分自身や日本人の価値観について深く考えることにある。また、現代と異なることばの仕組みや語彙などを知ること、面白みの一つである。充実した学びのために予習を心がけ、積極的な態度で授業に臨むこと。</p> <p>共通テスト・二次試験対策及び記述力のアップをめざしての問題演習は、希望進路実現のためと意識を高く持ち、真剣且つ積極的に取り組むこと。</p>									

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・世界史探究	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「詳説 世界史」山川出版 副教材:「グローバルワイド最新世界史図表」第一学習社 「世界史重要語句チェックリスト」啓隆社 「30テーマ 世界史問題集」山川出版社

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	観察 ノート提出	10%
b. 思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化をふまえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
c. 資料活用の技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図や表などにまとめたりしている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	近世ヨーロッパ世界の形成と展開	ルネサンス・宗教改革・主権国家体制の成立を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質を理解する。	○		○	○
			近世ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ヨーロッパ諸国の世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。	○	○		
			欧米における近代国民国家の発展	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解する。	○			○
			第1回考査		○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	アジア諸地域の動揺	世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とそこでの日本の位置づけを理解する。	○	○		○
			帝国主義とアジアの民族運動	科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察する。		○	○	
			二つの世界大戦	総力戦としての二つの世界大戦、ソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解し、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察する。	○	○		○
				第2回考査		○	○	○
後期	10 11 12	35	冷戦と第三世界の自立	冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解し、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察する。		○		○
			現在の世界	市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解し、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察する。	○		○	
				実践問題演習に取り組む。		○		○
				第3回考査		○		○
	1 2	20	全範囲の総復習を行う。	大学入試を見据えて過去問題に取り組み、内容を理解する。	○	○		○
				第4回考査は行わない				
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・世界史B	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「詳説 世界史」山川出版 副教材:「グローバルワイド最新世界史図表」第一学習社 「30日完成スピードマスター世界史問題集 世界史B」山川出版社 「30テーマ 世界史問題集」山川出版社

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	観察	10%
b. 思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化をふまえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
c. 資料活用の技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図や表などにまとめたりしている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	先史の世界 オリエントと地中海世界	人類は自然環境に適応しながら諸文明を築き上げ、それらをもとに地域世界を形成したことを把握し、西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア・地中海世界の形成過程を理解する。	○		○	
			アジア・アメリカの古代文明 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	南アジア・東南アジアの地理的特質、インダス文明や南アジア文化の発展、東南アジアの国家形成に触れ、それらの世界の形成過程を理解する。東・内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家、唐帝国と東アジア文化圏に触れ、東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握する。		○	○	
			イスラーム世界の形成と発展	アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。	○		○	○
			ヨーロッパ世界の形成と発展	西ヨーロッパ封建社会の成立と変動と、東ヨーロッパの動向に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を理解する。		○	○	
			第1回考査			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	内陸アジア世界・東アジア世界の展開 アジア諸地域の繁栄	内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシア諸地域世界の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を理解する。イスラーム諸帝国、東南アジア海域の動向、明・清帝国とアジア諸国の関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特徴を理解する。	○		○	
			近代ヨーロッパ世界の形成と発展	ルネサンス・宗教改革・主権国家体制の成立を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特徴を理解する。		○	○	
			近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ヨーロッパ諸国の世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特徴とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。	○		○	○
			欧米における近代国民国家の発展	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解する。		○	○	
			アジア諸地域の動揺	世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特徴とそこでの日本の位置づけを理解する。			○	○
				第2回考査		○	○	
後期	10 11 12	35	帝国主義とアジアの民族運動	科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特徴について考察する。	○	○	○	
			二つの世界大戦	総力戦としての二つの世界大戦、ソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特徴について考察する。	○		○	○
			冷戦と第三世界の自立 現代の世界	戦後の国際政治と冷戦構造について理解し、現代社会における国際問題や民族紛争の原因について、歴史的背景を理解する。		○	○	
				第3回考査			○	○
	1 2	20	全範囲の総復習を行う。	大学入試を見据えて過去問題に取り組み、内容を理解する。		○	○	○
				第4回考査は行わない				
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・日本史探究	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「詳説日本史B」(山川出版社) 副教材:「新詳日本史」(浜島書店) 「日本史重要語句チェックリスト」(啓隆社) 「ゼミナール日本史」(浜島書店) 日本史用語集(山川出版社)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	授業態度 提出物	10%
b. 思考・判断・表現	日本の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、日本の文化と伝統の特色について認識を深め、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
c. 資料活用の技能	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図や表などにまとめている。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
d. 知識・理解	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業プリント作業 定期考査 小テスト 提出物	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
前期	4	32	近世社会の展開	17世紀、伝統的権威である朝廷、寺社勢力や大名勢力、農民など庶民に対する統制を強化する一方、対外関係の統制も確立する過程を考察できる。 幕府政治が武断政治から文治政治へと転換する中、体制が安定するとともに一般町人や有力百姓をも担い手とする元禄文化成立の背景を考察できる。		○		○	
	5		近世社会の動揺	18世紀、農業・商業・手工業の発展に伴う社会変動や飢饉などの自然災害に対応できず、幕藩体制が動揺していく過程を考察できる。	○		○	○	
	6		開国と明治維新	日米和親条約・日米修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察できる。 廃藩置県・徴兵制度・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できる。	○	○		○	
			立憲国家の成立	近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことが理解できる。また、言論による抵抗に移行する要因を考察できる。 国境画定を含む明治初期の外交政策について、欧米諸国への対応とアジア諸国への対応の違いを多面的・多角的にとらえることができる。 国会開設要求の運動などにみられる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察できる。また、憲法の特色などを通じて戦前の立憲制の仕組みが理解できる。	○		○	○	
				第1回考査(6月)			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	32	立憲国家の成立	<p>条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を年表や地図から考察できる。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景になった点を理解できる。</p> <p>日露戦争が国家の総力を結集して戦われた点を考察できる。また、日本の勝利がアジア諸国の民族独立を刺激した反面、韓国併合などが近隣諸国の受け止め方への変化に繋がったことを考察できる。</p> <p>殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、繊維部門での産業革命以降、重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連付けて考察できる。</p>	○		○	
	8		第一次世界大戦と日本	<p>劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鋇毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応に着目できる。</p> <p>国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できる。</p> <p>大戦景気に着目して資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できる。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目して政党の役割と動向について考察できる。</p> <p>ヴェルサイユ体制からワシントン体制にいたる経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目できる。</p> <p>学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化のかかわりと浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できる。</p>	○		○	
	9			第2回考査(9月)			○	○
後期	11	32	昭和の恐慌と満州事変	<p>戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁・世界恐慌との関連を含めて理解できる。</p> <p>満州事変から国際連盟の脱退にいたる日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できる。</p>	○		○	○
			第二次世界大戦と日本	<p>中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など様々な角度から考察できる。</p> <p>連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力戦体制などを踏まえ、日本がアジア諸国に損害を与えたことや日本も原爆投下など空前の戦禍を被ったことに着目できる。</p>	○		○	○
	12	32	占領下の日本	<p>主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の3原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を国民生活の状況も踏まえて考察できる。</p> <p>サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察できる。</p>	○		○	○
			経済繁栄と保守長期政権	<p>保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生にいたるまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できる。</p>	○		○	○
	12		現代の世界と日本	<p>冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取り上げて考察できる。</p>	○		○	○
	1	20	全範囲の総復習を行う。	<p>大学入試を見据えて過去問題に取り組み、内容を理解する。</p> <p>第4回考査は行わない</p>			○	○
	2						○	○

【年間の学習状況の評価方法】

- 1 授業への取り組み状況
- 2 提出物 授業ファイル・問題集の提出を各考査ごとに課す
- 3 テストの実施 各単元終了ごとに小テスト、前後期で3回定期考査を実施する

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・日本史B	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「詳説日本史」(山川出版社) 副教材:「新詳日本史」(浜島書店) 「ゼミナール日本史」(浜島書店) 「日本史重要語句チェックリスト」(啓隆社) 日本史用語集(山川出版社)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	授業態度 提出物	10%
b. 思考・判断・表現	日本の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、日本の文化と伝統の特色について認識を深め、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
c. 資料活用の技能	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図や表などにまとめたりしている。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
d. 知識・理解	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業プリント作業 定期考査 小テスト 提出物	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	32	日本文化のあけぼの	日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができる。	○		○	○
	小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料に基づき国内外の情勢を踏まえて多角的に考察できる。				○		○	
	5		古墳の形状や大きさの変化、石室など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係を考察できる。	○		○	○	
	中国及び高句麗・新羅・百済など朝鮮半島の情勢との関連、文字や仏教など大陸文化の受容を踏まえヤマト政権の成立についてとらえることができる。			○		○		
6	律令国家の形成	推古朝の政権運営や飛鳥文化の形成について仏教の受容や遣隋使などの大陸との交流を踏まえて考察できる。	○		○	○		
			平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について遣唐使の派遣や地方社会との関わりなども踏まえて考察できる。		○		○	
			第1回考査(6月)		○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	32	貴族政治と国風文化	文献資料を基に藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる公地公民の崩れなど、土地制度の変容を関連付けて考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
				盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				藤原氏北家が権力を掌握していく過程を理解し律令体制の変容の観点から摂関政治を考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	8		中世社会の成立	国際関係の変化や遣唐使の中止などを踏まえ浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文字の成立による国文学の発達に着目して貴族の生活・文化を理解できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				文献資料を活用し国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	9		中世社会の成立	武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				延久の荘園整理令により荘園公領制が明確化されたことを踏まえて院政の政治構造や経済・社会・文化を理解できる。			<input type="radio"/>	
源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などに着目することができる。		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
		蒙古襲来、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			
		第2回考査(9月)		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
後期	10	武家社会の成長	鎌倉仏教の多様な動き、社会的・思想的な意義やその影響について考察できる。この時代の文学・絵巻物・彫刻の特徴に着目できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			鎌倉幕府の滅亡、建武政権の成立と崩壊を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構確立について理解できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
			惣村の形成や土一揆の発生など庶民による自治的な組織の成立に着目して応仁の乱に代表される室町幕府の動揺や衰退を考察できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
			南北朝・北山・東山文化を通じて武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ、能・狂言・茶の湯・生花などを例にとり理解できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	11	幕藩体制の確立	富国強兵策を推進して領国統治を強化した戦国大名、堺や博多など都市の発展を踏まえて戦後国の日本の多様性を考察できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
			鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	12	近世社会の展開	幕藩体制との繋がりに着目し、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			17世紀、伝統的権威である朝廷、寺社勢力や大名勢力、農民など庶民に対する統制を強化する一方、対外関係の統制も確立する過程を考察できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	12	近世社会の動揺	幕府政治が武断政治から文治政治へと転換する中、体制が安定するとともに一般町人や有力百姓をも担い手とする元禄文化成立の背景を考察できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			18世紀、農業・商業・手工業の発展に伴う社会変動や飢饉などの自然災害に対応できず、幕藩体制が動揺していく過程を考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		第3回考査(12月)		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
1	20	全範囲の総復習	大学入試を見据えて過去問題に取り組み、内容を理解する。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			第4回考査は行わない					

【年間の学習状況の評価方法】

- 1 授業への取り組み状況
- 2 提出物 授業ファイル・問題集の提出を各考査ごとに課す
- 3 テストの実施 各単元終了ごとに小テスト、前後期で3回定期考査を実施する

【その他】

新高等学校学習指導要領の領土に関する規定を適用する。

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・地理探究	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「新詳 地理B」帝国書院、「詳解現代地図」二宮書店 副教材:「新編地理資料2020」東京法令出版 「2020データブックオブ・ザ・ワールド」二宮書店 「Newコンパスノート」東京法令出版

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	ポートフォリオ提出	30%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 単元別振り返り	30%
c. 資料活用の技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	定期考査 単元別振り返り	10%
d. 知識・理解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 単元別振り返り	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	第3次産業	第3次産業のうち、交通・通信、観光についての概要を理解する。また、そこで理解したことを用いて、技術の進歩や観光業の発達、我々の生活や地域の在り方についてどのような影響を与えるのかについて考察する。		○		○
			人口	人口転換論や日本の人口動態について理解する。また、日本と他国との比較を通して日本の課題を浮き彫りにし、その解決に取組みは何かを議論する。	○			○
			村落・都市	人々の生活空間としての村落や都市の形成過程や、立地傾向に関連する自然・社会条件を理解する。また、都市の発展に伴う様々な社会現象の理解を通して、事象の多面性を捉えられるようにする。		○		○
			生活文化、民族・宗教	世界の衣食住、人種、宗教、紛争について、それぞれどのような場所で見られ、どのような背景があるのかについて理解する。また、なぜそのような現象が生じるのかについて、主体となる人々への共感的理解などを踏まえて、考察する。		○		○
			国家・領土問題	国家の枠組みについて理解する。また、国家の領域を巡って生じる領土問題について、その背景や解決の難しさなどの理解を通して、我々が領土問題にどう向き合っていくべきなのかについて議論する。	○			○
				第1回考査	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d		
前期	7 8 9	35	地域区分と各地域の考察方法	地誌分野の学習の見通しを立てるとともに、現在の世界の各地域に対する認識を確認する。	○		○			
			東アジア	中国、韓国、台湾、モンゴルなど東アジアの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			東南アジア	東南アジアの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			南アジア	南アジアの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			西・中央アジア	西・中央アジアの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			アフリカ	アフリカの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
第2回考査					○	○	○	○		
後期	10 11 12	35	ヨーロッパ	ヨーロッパの国々がどのような地域かを理解する。また、EUという地域共同体の成立や課題について理解し、これから先のEUがどうなるかについて議論し、評価する。			○	○		
			ロシア	ロシアという国がどういう地域かを理解する。					○	○
			北アメリカ	北アメリカの国々がどういう地域かを理解する。					○	○
			ラテンアメリカ	ラテンアメリカの国々がどういう地域かを理解する。					○	○
			オセアニア	オセアニアの国々がどういう地域かを理解する。					○	○
第3回考査					○	○	○	○		
	1 2	20	現代世界と日本	日本という国について、テーマごとの探究を行い、レポート作成および発表を行う。この際、日本以外の国(最低1か国)との比較をする。	○	○	○	○		
【その他】										

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・地理B	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「新詳 地理B」帝国書院、「詳解現代地図」二宮書店 副教材:「新編地理資料2020」東京法令出版 「2020データブックオブ・ザ・ワールド」二宮書店 「Newコンパスノート」啓隆社

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	ポートフォリオ提出	30%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 単元別振り返り	30%
c. 資料活用の技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	定期考査 単元別振り返り	10%
d. 知識・理解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 単元別振り返り	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	第2次産業	工業立地論や各国の工業の特徴について理解する。また、それが現在の世界においてどのように結びついているのかを、貿易の視点から考察する。		○		○
			第3次産業	第3次産業のうち、交通・通信、観光についての概要を理解する。また、そこで理解したことを用いて、技術の進歩や観光業の発達が、我々の生活や地域の在り方についてどのような影響を与えるのかについて考察する。		○		○
			人口	人口転換論や日本の人口動態について理解する。また、日本と他国との比較を通して日本の課題を浮き彫りにし、その解決の解決に必要な取組みは何かを議論する。	○			○
			村落・都市	人々の生活空間としての村落や都市の形成過程や、立地傾向に関連する自然・社会条件を理解する。また、都市の発展に伴う様々な社会現象の理解を通して、事象の多面性を捉えられるようにする。		○		○
			生活文化、民族・宗教	世界の衣食住、人種、宗教、紛争について、それぞれどのような場所でみられ、どのような背景があるのかについて理解する。また、なぜそのような現象が生じるのかについて、主体となる人々への共感的理解などを踏まえて、考察する。		○		○
			国家・領土問題	国家の枠組みについて理解する。また、国家の領域を巡って生じる領土問題について、その背景や解決の難しさなどの理解を通して、我々が領土問題にどう向き合っていくべきなのかについて議論する。	○			○
第1回考査					○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d		
前期	7 8 9	35	地域区分と各地域の考察方法	地誌分野の学習の見通しを立てるとともに、現在の世界の各地域に対する認識を確認する。	○		○			
			東アジア	中国、韓国、台湾、モンゴルなど東アジアの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			東南アジア	東南アジアの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			南アジア	南アジアの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			西・中央アジア	西・中央アジアの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			アフリカ	アフリカの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
第2回考査					○	○	○	○		
後期	10 11 12	35	ヨーロッパ	ヨーロッパの国々がどのような地域かを理解する。また、EUという地域共同体の成立や課題について理解し、これから先のEUがどうなるかについて議論し、評価する。			○	○		
			ロシア	ロシアという国がどのような地域かを理解する。					○	○
			北アメリカ	北アメリカの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			ラテンアメリカ	ラテンアメリカの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			オセアニア	オセアニアの国々がどのような地域かを理解する。					○	○
			第3回考査						○	○
	1 2	20	現代世界と日本	日本という国について、テーマごとの探究を行い、レポート作成および発表を行う。この際、日本以外の国(最低1か国)との比較をする。	○	○	○	○		
【その他】										

年間指導計画表

教科・科目	公民・政治・経済探究	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	民主的で公正な社会の形成者となるために、政治・経済の視点を中心としながら、倫理・文化などの多面的・多元的な観点を取り入れた主権者として現代社会の諸課題について探究できる。
使用教科書・副教材等	教科書「政治・経済」(東京書籍) 副教材「最新政治・経済資料集新版」(第一学習社) 「入試対策問題集ステップアップ政治・経済」(第一学習社)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	民主的なよりよい社会の実現を志向する態度をもつ。	授業中の反応 課題	25%
b. 思考・判断・表現	多面的・多元的な観点で公正に判断し表現できる。	授業中の反応 課題、考査	25%
c. 技能	良質な資料(データ)を批判的に読解し活用できる。	授業中の反応 課題、考査	25%
d. 知識・理解	社会事象について概念をより精確に身に付けている。	授業中の反応 課題、考査	25%

3 学習計画

学期	月	時数	主な学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	36	国際政治	国際政治について概観する。	○		○	○
	5		国際経済	国際経済について概観する。 → 第1回考査	○	○	○	
	6							
	7	34	政治探究	既習の政治学習の内容を基に現代社会の諸問題を探究する。	○		○	
8								
9			→ 第2回考査					

学期	月	時数	主な学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
後期	10	35	経済探究	既習の経済学習の内容を基に現代社会の諸問題を探究する。	○		○	○
	11				→ 第3回考査			
	12		問題演習	現代社会の諸問題について総合的に探究する。	○		○	
	1	10						
	2							
【その他】								
授業では、倫理分野の復習も行います。第2学年で使用した教科書・資料集・用語集を持ってきてください。								

年間指導計画表

教科・科目	公民・倫理・政経	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自由で公正な社会の形成者となるために、政治・経済の視点を中心としながら、倫理・文化などの多面的・多角的な観点を取り入れた主権者として現代社会の諸課題について考察できる。
使用教科書・副教材等	教科書「政治・経済」(東京書籍)、「高等学校新倫理新訂版」(清水書院) 副教材「最新政治・経済資料集新版」(第一学習社) 「改訂版チェック&演習倫理/政経」(数研出版) 「詳細倫理資料新訂版」(実教出版) 「用語集倫理新訂版第4版」(清水書院)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	民主的なよりよい社会の実現を志向する態度をもつ。	授業中の反応 課題	25%
b. 思考・判断・表現	多面的・多角的な観点で公正に判断し表現できる。	授業中の反応 課題、考査	25%
c. 技能	良質な資料(データ)を批判的に読解し活用できる。	授業中の反応 課題、考査	25%
d. 知識・理解	社会事象について概念をより精確に身に付けている。	授業中の反応 課題、考査	25%

3 学習計画

学期	月	時数	主な学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	36	源流思想基礎	源流思想が現代にどのように活用できるか概観する。	○		○	
	5		現代の政治原理	西洋思想がどのように政治反映しているか概観する。 → 第1回考査			○	○
	6							
	7	34	源流思想応用	東西の先哲の世界観・人間観・人生観を考察する。	○			○
8	現代の経済基礎		西洋思想がどのように政治反映しているか考察する。 → 第2回考査			○	○	
9								

学期	月	時数	主な学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
後期	10	35	西洋近代思想	西洋思想が現代にどのように活用できるか考察する。	○		○	
	11		日本経済	西洋思想がどのように経済反映しているか考察する。 → 第3回考査			○	○
	12		日本思想	日本思想が現代にどのように活用できるか考察する。	○	○		○
	1	10	国際経済	日本がどのようにグローバル化しているか考察する。	○		○	
	2		問題演習					
	3							
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習A	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅱ、数学B、数学Ⅰ及び数学Aの学習内容を踏まえ、より発展的な問題を処理する能力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	教科書「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」数研出版 副教材「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」数研出版

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	ノート 観察 レポート	10%
b. 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
c. 数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	32	問題演習 数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B	・「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」の問題演習を通して、公式や基本事項の確認をするとともに問題解決の能力を伸ばす。 数学Ⅰ… 数と式・2次関数・図形と計量・データの分析 数学A… 場合の数・確率・整数の性質・図形の性質 数学Ⅱ… 式と証明・複素数と方程式・図形と方程式・三角関数・指数関数と対数関数・微分と積分 数学B… 平面上のベクトル・空間のベクトル・数列	○	○	○	○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	32	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する習慣を身に着ける。 	○	○	○	○
			数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B		第2回考査		○	○
後期	10 11 12	32	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する習慣を身に着ける。 	○	○	○	○
			数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B		第3回考査		○	○
	1 2	20	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する習慣を身に着ける。 	○	○	○	○

【その他】 これまでの学習は復習が中心でしたが、これからは予習に重点を置くことが大切です。なぜなら、正答を導くことができなくても、一度は自分自身で考え、どこでつまづいたのかを把握した上で授業を受けることが重要だからです。さらに、予習の際には類題をチャートから見つけることも大切です。良問を繰り返し解いて、確かな基礎力の上に応用力を身につけ、そして発展的な力を身につけましょう。そのためには、解答を眺めるだけではなく、自分で手を動かして問題を解き、途中の式を書いたり、グラフや図を描いたりして、自分だけのオリジナルのノートを作りましょう。

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習B	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅱ、数学B、数学Ⅰ及び数学Aの学習内容を踏まえ、より発展的な問題を処理する能力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	教科書「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」数研出版 副教材「共通テスト対策 重要問題演習 数学」ランズ 副教材「チャート式基礎からの数学Ⅱ+B」数研出版 副教材「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」数研出版

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	ノート 観察 レポート	10%
b. 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
c. 数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	16	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通して、公式や基本事項の確認をするとともに問題解決の能力を伸ばす。また、記述答案の作成により表現力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する意欲・習慣を身に着ける。 数学Ⅰ… 数と式・2次関数・図形と計量・データの分析 数学A… 場合の数・確率・整数の性質・図形の性質	○	○	○	○
			数学Ⅰ 数学A		第1回考査		○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	16	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通して、公式や基本事項の確認をするとともに問題解決の能力を伸ばす。また、記述答案の作成により表現力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する意欲・習慣を身に着ける。 数学Ⅱ… 式と証明・複素数と方程式・図形と方程式・三角関数・指数関数と対数関数・微分と積分 数学B… 平面上のベクトル・空間のベクトル・数列 第2回考査	○	○	○	○
			数学Ⅱ 数学B		○	○	○	
後期	10 11 12	16	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する意欲・習慣を身に着ける。 第3回考査	○	○	○	○
			数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B		○	○	○	
	1 2	10	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する意欲・習慣を身に着ける。 	○	○	○	○
<p>【その他】 主に発展的な内容の演習を行います。ひとつひとつの問題をじっくり考えて解くことにより、問題を解決する実践力を養成します。苦手な分野の基礎知識が不十分な場合は各単元のはじめにあるwarming up問題を活用して徹底的に再構築しましょう。また、演習問題は、ただ解くだけでなく、何故そのような道筋による解法が最善なのか考察できるよう、常に多面的なアプローチと、より正確な計算力を工夫する習慣も身に着けていくことを意識して下さい。</p>								

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学Ⅲ	単位数	5
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。また、数学的な見方や考え方の利点を活用できる力をつける。
使用教科書・副教材等	教科書「数学Ⅲ」数研出版 副教材「改訂版 教科書傍用 4STEP数学Ⅲ」数研出版 副教材「改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅲ」数研出版 副教材「五訂版 チョイス新標準問題集数学Ⅲ」河合塾出版

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法および積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	ノート 観察 レポート	10%
b. 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身につけている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
c. 数学的な技能	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法および積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法および積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	40	数学Ⅲ 第3章 関数	<ul style="list-style-type: none"> ・分数関数と無理関数のグラフを利用して分数不等式や無理不等式が解ける。 	○	○	○	○
	5		第4章 極限	<ul style="list-style-type: none"> ・合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な関数の場合について、それらが求められる。 ・数列の極限に関して、収束、発散、振動の意味や、極限値の性質、はさみうちの原理などの基本事項を理解し、無限等比数列の極限についてまとめ、数列の極限の理解を深める。 ・数を無限に加えることの考察から、一般の無限級数の和について理解し、それを無限等比級数に応用して、その収束条件、和の公式を導く。さらに、循環小数を分数で表すことなどの具体的な問題の解決に活用できる。 	○	○	○	○
	6		第5章 微分法	<ul style="list-style-type: none"> ・和・差・積・商および合成関数の微分法を扱い、初等関数の導関数について理解する。 ・関数の増減やグラフのどの考察を通して、微分法の有用性を認識するとともに、具体的な事象の考察に活用できる。 ・三角関数の微分、対数関数の微分の技法を習得し、それと関連して自然対数を導入して指数関数の微分ができるようにする。また、対数微分法、高次導関数の概念を理解し、簡単な関数の第二次、第三次導関数が求められる。 ・第二次導関数を用いてグラフの凹凸、変曲点を調べてグラフが描ける。 	○	○	○	○
第1回考査						○	○	○
前期	7	40	第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 速度と近似式	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数を用いて様々な問題への活用を図る。接線や法線の方程式、平均値の定理、最大・最小や方程式・不等式の証明問題などへの応用ができる。 ・第2次導関数を用いてグラフがかけられる。また、速度、加速度と微分法の関連を理解できる。 	○	○	○	○
	8		第7章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分 第8章 積分法の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・置換積分法、部分積分法の技法を理解する。 ・定積分と微分の関係、区分求積法について学び、定積分について理解を深める。 	○	○	○	○
	9		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や媒介変数で表された曲線によって囲まれた図形の面積が求められる。 ・角錐や円錐などの体積を求め、積分の有用性を理解する。さらに、回転体の体積を求める技法を習得し、円柱、球、トーラスなどの体積が求められるようにする。 ・放物線、楕円、双曲線の定義とその方程式の標準形について理解する。 ・二次曲線と直線の位置関係や接線について理解する。 	○	○	○	○	
第2回考査						○	○	○
後期	10 11 12	40	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 	○	○	○	○
	1 2	25	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する習慣を身に着ける。 	○	○	○	○
<p>【その他】教科書の例題・練習・問や4STEPの問題を利用して、学習した内容を演習する習慣を身につけよう。授業の復習として4STEPで日常的に演習を行い、チャートの問題は週末などに時間をかけて取り組み、確かな基礎力の上に応用力を身につけよう。数学の力をつけるためには、問題演習を繰り返すことが必要であり、良問との出会いが重要になります。意欲的に学習しよう。出来る限り予習をして授業に臨む習慣をつけるようにしましょう。</p>								

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習1	単位数	5
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学Bの学習内容を踏まえ、より発展的に理解する力を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」数研出版 副教材「改訂版 チャート式基礎からの数学Ⅰ+A」数研出版 「改訂版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B」数研出版 「アップリフト数学ⅠA・ⅡB必修編」Z会

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	ノート 観察 レポート	10%
b. 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
c. 数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	40	問題演習	・「アップリフト数学ⅠA・ⅡB必修編」の問題演習を通して、公式や基本事項の確認をするとともに問題解決の能力を伸ばす。 数学Ⅰ… 数と式・2次関数・図形と計量・データの分析 数学A… 場合の数・確率・整数の性質・図形の性質 数学Ⅱ… 式と証明・複素数と方程式・図形と方程式・三角関数・指数関数と対数関数・微分と積分 数学B… 平面上のベクトル・空間のベクトル・数列	○	○	○	○
			数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B		第1回考査	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	40	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・「アップリフト数学ⅠA・ⅡB必修編」の問題演習を通して高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する習慣を身に着ける。 	○	○	○	○
			数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B		第2回考査		○	○
後期	10 11 12	40	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・「アップリフト数学ⅠA・ⅡB必修編」の問題演習を通して高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する習慣を身に着ける。 	○	○	○	○
			数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B		第3回考査		○	○
	1 2	25	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する習慣を身に着ける。 	○	○	○	○
<p>【その他】 これまでの学習は復習が中心でしたが、これからは予習に重点を置くことが大切です。なぜなら、正答を導くことができなくても、一度は自分自身で考え、どこでつまづいたのかを把握した上で授業を受けることが重要だからです。さらに、予習の際には類題をチャートから見つけることも大切です。良問を繰り返し解いて、確かな基礎力の上に応用力を身につけ、そして発展的な力を身につけましょう。そのためには、解答を眺めるだけではなく、自分で手を動かして問題を解き、途中の式を書いたり、グラフや図を描いたりして、自分だけのオリジナルのノートを作りましょう。</p>								

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習 2	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅱ、数学B、数学Ⅰ及び数学Aの学習内容を踏まえ、複数の分野を融合的に理解する発展的な力を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」数研出版 副教材「チャート式基礎からの数学Ⅱ+B」数研出版 「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」数研出版 副教材「共通テスト対策 重要問題演習 数学」ランズ

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	ノート 観察 レポート	10%
b. 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
c. 数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	観察 レポート 単元テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	16	問題演習 数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B	・「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」の「Example」「Warm Up」を扱い、演習を通して、公式や基本事項の確認をするとともに問題解決の能力を伸ばす。 数学Ⅰ… 数と式・2次関数・図形と計量・データの分析 数学A… 場合の数・確率・整数の性質・図形の性質 数学Ⅱ… 式と証明・複素数と方程式・図形と方程式・三角 関数・指数関数と対数関数・微分と積分 数学B… 平面上のベクトル・空間のベクトル・数列 第1回考査	○	○	○	○
						○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	16	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」の「Step Up」「Clear」の演習を通して、高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する習慣を身に着ける。 	○	○	○	○
			数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B		第2回考査		○	○
後期	10 11 12	16	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する習慣を身に着ける。 	○	○	○	○
			数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B		第3回考査		○	○
	1 2	10	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学全般の知識を発展的に活用する力をつける。 ・問題に対して解法を一つだけでなく、多面的にとらえて考える。 ・ただ単に解けるだけでなく、何故そのような解法になるか考察して論理的思考力を養う。 ・日常の事象から数学的「問い」を立て、解決する習慣を身に着ける。 	○	○	○	○

【その他】 これまでの学習は復習が中心でしたが、これからは予習に重点を置くことが大切です。なぜなら、正答を導くことができなくても、一度は自分自身で考え、どこでつまづいたのかを把握した上で授業を受けることが重要だからです。さらに、予習の際には類題をチャートから見つけることも大切です。良問を繰り返し解いて、確かな基礎力の上に応用力を身につけ、そして発展的な力を身につけましょう。そのためには、解答を眺めるだけでなく、自分で手を動かして問題を解き、途中の式を書いたり、グラフや図を描いたりして、自分だけのオリジナルのノートを作りましょう。

年間指導計画表

教科・科目	理科・物理	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型物理選択者) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	物理的な事物・現象に関わり、見通しをもって観察・実験を行い、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。
使用教科書・副教材等	教科書 数研出版「改訂版 物理」 傍用問題集 「リードα 物理基礎・物理」 問題集 「物理のエッセンス 力学・波動」「物理のエッセンス 熱・電磁気・原子」「良問の風 物理」「チェック&演習 物理」

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	ノート 実験レポート	10
b. 思考・判断・表現	物理的な物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査	40
c. 観察・実験の技能	物理的な事物・現象に関する観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	実験レポート	10
d. 知識・理解	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。	定期考査	40

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	分子運動論・熱機関	分子運動の視点から圧力・運動エネルギー・内部エネルギーを理解する。	○		○	
			電場・電位・コンデンサー	電場・電位の関係を理解し、電気力線や等電位面であらわすことができるようになる。コンデンサーの電気容量・蓄える電荷・静電エネルギーについて理解する。	○		○	
			静電気・直流回路	キルヒホッフの法則から直流回路の電流・電圧を求めることができるようになる。。電流計・電圧計、電池の内部抵抗について理解する。	○		○	
			第1回考査			○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	電流による磁場・磁束密度	直線電流・円形電流・ソレノイドがつくる磁場、磁束密度について定量的に理解する。	○		○	
			電磁力・ローレンツ力	電磁力の大きさ・向きについて理解する。運動する荷電粒子が磁場からローレンツ力を受け円運動する現象を理解する。	○		○	
			電磁誘導	コイルを貫く磁束が変化すると、誘導起電力が生じる仕組みを理解する。	○		○	
			自己誘導・相互誘導	電磁誘導の応用として、自己誘導・相互誘導の現象を理解する。	○		○	
			第2回考査		○		○	
後期	10 11 12	35	交流回路・電気振動	交流回路におけるコンデンサー・コイルの役割を理解する。電気振動、電磁波の発生について理解する。	○		○	
			光電効果・X線	光電効果を光の粒子性で理解する。X線についても同様に波動性・粒子性の性質をもつことを理解する。	○		○	
			物質波・ボーアの水素原子モデル	量子条件・振動数条件をもとに、水素原子モデルを学習し、水素原子からの発光のメカニズムを理解する。	○		○	
			核反応式・放射線・結合エネルギー・半減期	放射線の基本的な性質を学ぶ。放射性元素が崩壊するしくみ、半減期の法則性を理解する。	○		○	
			第3回考査		○		○	
	1 2	20	1年間のまとめ	1年間のまとめを行い、入試問題が解けるようになる。		○		○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・化学	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書: 第一学習社「化学」 副教材: 第一学習社「セミナー化学基礎+化学」、 数研出版「化学重要問題集—化学基礎・化学」、 数研出版「大学入試共通テスト対策チェック&演習 化学」、 実教出版「サイエンスビュー化学総合資料」、 駿台文庫「共通テスト実践問題パックV 化学」

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	ノート、観察、小テスト	10%
b. 思考・判断・表現	化学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	レポート、定期考査	40%
c. 観察・実験の技能	化学的な事物・事象に関する観察、実験などを行う際、実験器具などの基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	実験、レポート	10%
d. 知識・理解	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	小テスト、定期考査	40%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	32	第三章 無機物質 第1節 非金属元素 第2節 典型金属元素 第3節 遷移元素 第4節 無機物質と人間生活	非金属の単体や化合物について、それらの性質や用途を学習し、生成法を理解する。 金属の単体や化合物について、それらの性質や用途を学習し、製造法を理解する。 沈殿生成反応に基づいて、種々の金属イオンの分離方法を導き出すことができる。	○		○	○
			第四章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴と分類	【無機物質の確認テスト】 有機化合物の特徴と分類について理解する。 化学式を決定する実験原理を学習し、既習内容と関連付けて導出方法を理解する。 【第1回考査】	○		○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	32	第2節 脂肪族炭化水素 第3節 酸素を含む脂肪族化合物 第4節 芳香族化合物 第5節 有機化合物と人間生活	アルカン、アルケン、アルキンなど脂肪族炭化水素の性質を、化合物の構造に関連付けて学習する。 アルコールなど、酸素を含む脂肪族化合物について、それらの性質や反応性の違い、構造や官能基の違いと関連付けて学習する。 【脂肪族化合物の確認テスト】 芳香族化合物について、それらの性質や用途を理解する。 また、脂肪族化合物の反応性との相違点を、脂肪族化合物の性質と関連付けて理解する。 界面活性剤など人間生活に関連の深い物質の性質や用途を理解する。 【第2回考査】	○	○	○	
			第V章 高分子化合物 第1節 合成高分子化合物 第2節 天然高分子化合物 第3節 高分子化合物と人間生活	高分子化合物について、その分類や重合の違いとそれに基づく性質の違いを理解する。 糖類、アミノ酸、タンパク質、核酸など天然有機化合物の性質を構造や有機化合物の内容と関連付けて学習する。 合成繊維、合成樹脂、合成ゴム、機能性高分子化合物について、それらの構造や性質を理解する。 【高分子化合物の確認テスト】 記述力を高めるための基本的な問題演習を行う。 既習事項を踏まえ、読解力と思考力を養えるように問題演習を行う。 【第3回考査】	○		○	○
後期	10 11 12	32	記述形式の問題演習 全範囲の総復習を行う					
			全範囲の総復習を行う	既習事項を踏まえ、読解力と思考力を養えるように問題演習を行う。				○
	1 2	20						
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・化学演習	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	化学的な事物・現象への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力の伸長を図るとともに、化学基礎の学習内容を踏まえた上で、より発展的な概念の習得や科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書: 第一学習社「化学基礎」 副教材: 第一学習社「セミナー化学基礎+化学」、 数研出版「大学入試共通テスト対策チェック&演習 化学基礎」、 実教出版「サイエンスビュー化学総合資料」 駿台文庫「共通テスト実戦問題 パックV 化学基礎」

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	ノート、観察、小テスト	10%
b. 思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	レポート、定期考査	40%
c. 観察・実験の技能	物質とその変化に関する観察、実験などを行う際、実験器具などの基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	実験、レポート	10%
d. 知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	小テスト、定期考査	40%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	第3章 物質の変化 第3節 酸化還元反応	酸化と還元の定義を理解する。代表的な酸化剤と還元剤について学習し、それらの反応を理解する。 金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を理解し、金属の精錬や電池・電気分解の原理を学習する。	○		○	○
			第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表 第3節 物質と化学結合	副教材およびプリント教材を使って、学習済みの内容(特に、原子の構造、化学結合)を復習する。	○			○
				第1回考査		○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 第2節 酸と塩基の反応	副教材およびプリント教材を使って、学習済みの内容(物質、化学反応式、酸・塩基・中和)を復習する。 第2回考査	○		○	
								○
後期	10 11 12	18	記述形式の問題演習 全範囲の総復習を行う	既習事項を踏まえ、読解力と思考力を養えるように問題演習を行う。 第3回考査		○		○
							○	○
	1 2	10	全範囲の総復習を行う	既習事項を踏まえ、読解力と思考力を養えるように問題演習を行う。		○		○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型生物選択者) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書: 「改訂版 生物」(数研出版) 副教材: 「三訂版 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版) 「六訂版 リードα 生物基礎+生物」(数研出版) 「大学入学共通テスト 生物 単元別問題集」(駿台文庫)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	生物や生物現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	授業・ノート レポート	10%
b. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	問題演習 定期考査	30%
c. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	授業 レポート 定期考査	10%
d. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、正確な知識を関連付ける能力を身に付けている。	問題演習 定期考査	50%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	32	第4章 生殖と発生	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の分化や形態形成のしくみについて、誘導現象を中心に理解させる。前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について学習する。 ・植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解させる。 	○	○	○	○
			6. 細胞の分化と形態形成		○	○	○	○
	5		7. 植物の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューロン(神経細胞)の基本的な構造とそのはたらきを理解させる。 ・受容器で受け取られた刺激(情報)が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。その際、刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に上げ、効果器に関しては筋肉を中心に上げる。 ・動物の行動については、神経系における情報の流れと関連づけながら扱う。 	○	○	○	○
			第5章 動物の反応と行動		○	○	○	○
	6		1. ニューロンとその興奮		○	○	○	○
			2. 刺激の受容		○	○	○	○
	3. 情報の統合	○	○	○	○			
	4. 刺激への反応	○	○	○	○			
	5. 動物の行動	○	○	○	○			
			第1回考査	○	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	32	第6章 植物の環境応答 1. 植物の反応 2. 成長の調節 3. 花芽形成と発芽の調節	植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解させる。そのうえで、環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。 ・個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。その際、生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解させる。 ・生態系における物質生産について学習する。その際、いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について学習する。 ・生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識させる。 第2回考査	○	○		○
	8		第7章 生物群集と生態系 1. 個体群 2. 個体群内の個体間の調節 3. 異種個体群間の関係		○	○	○	○
	9		4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性		○	○		○
後期	10	32	第8章 生命の起源と進化 1. 生命の起源 2. 生物の変遷 3. 進化のしくみ 第9章 生物の系統 1. 生物の分類と系統 2. 原核生物 3. 原生生物 4. 植物 5. 動物 6. 菌類	・原始地球の状態や、どのように生命が誕生したのか、また進化がどのようなしくみで起こったかについて興味・関心を持ち、積極的に考えることができる。 ・生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解させる。その際、形態的な特徴などにもとづいた分類ばかりでなく、近年では、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについて扱う。個々の分類群については、その概要を学習する。 ・問題演習を通して、「生物」の学習内容を復習する。これまでの学習を通して理解したことを表現することができる。 第3回考査	○	○		○
	11		問題演習			○		○
						○	○	○
	1 2	20	学習内容のまとめ	・問題演習を通して、「生物」の学習内容を復習する。理解した内容をもとに、問題に対する正解を導くことができる。		○		○
【その他】 授業を大切に、そこで学ぶことを一つ一つしっかり理解していくことが大切である。単なる知識の理解だけではなく、1つ1つの事象に対して「なぜ」という疑問を持ってほしい。また、学習したことを活用してその疑問に対する答えを見出し、言葉で表現できるようになることが望ましい。								

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物演習 A	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書: 「改訂版 生物基礎」(数研出版) 副教材: 「三訂版 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版) 「つかむ生物基礎」(浜島書店) 「大学入学共通テスト 生物基礎 単元別問題集」(駿台文庫)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、それらを意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	授業 ノート	10%
b. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、それを探究する過程を通して事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	授業 定期考査	30%
c. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	実験・観察 定期考査	10%
d. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、正確な知識を関連付ける能力を身に付けている。	問題演習 定期考査	50%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	16	「1. 生物の特徴」の復習	・日常生活や学習の過程において、さまざまな生物や生命現象に対し、疑問を持っているか。	○			
	5		「2. 遺伝子とそのはたらき」の復習	・生物に関するさまざまなデータに基づいて、生命現象を科学的に考察することができる。		○		
	6		「3. 生物の体内環境」の復習	・顕微鏡の操作方法や、実験・観察の手順を正しく理解し、正確に行えるようにする。			○	
				・「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」に関連した生物の構造やしぐみについて理解する。				○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	16	「4. 植生の多様性と分布」の復習 「5. 生態系とその保全」の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学習の過程において、さまざまな生物や生命現象に対し、疑問を持っているか。 ・生物に関するさまざまなデータに基づいて、生命現象を科学的に考察することができる。 ・生態系に関する実験、観察が正確な知識に基づいて行えるようにする。 ・「生物の多様性と生態系」に関連した生物の関連性や自然現象について理解する。 	○			
	8							
	9							
後期	10	16	全範囲の演習1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した内容を、積極的に復習することができる。 ・グラフや図を含む演習問題について、データを整理し、科学的に考察を行うことができる。 ・実験操作や観察の適切な方法を選択することができる。 ・「生物基礎」で学習した知識を正確に理解し、解答することができる。 	○			
	11							
	12							
	1	10	全範囲の演習2	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って演習に取り組むことができる。 ・限られた時間の中で正しく問題を理解し、正答を導き出すことができる。 ・データをグラフや図として表現することができ、それをもとに科学的に結論を導くことができる。 ・これまでに授業で習得した知識を活用して、新たな問題に取り組むことができる。 	○			
	2							
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物演習B	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書：「改訂版 生物基礎」(数研出版) 副教材：「三訂版 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版) 「五訂版 リードα 生物基礎」(数研出版) 「つかむ生物基礎」(浜島書店) 「大学入学共通テスト 生物基礎 単元別問題集」(駿台文庫)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、それらを意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	授業 ノート	10%
b. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、それを探究する過程を通して事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	授業 定期考査	30%
c. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	実験・観察 定期考査	10%
d. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、正確な知識を関連付ける能力を身に付けている。	問題演習 定期考査	50%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	16	「1. 生物の特徴」の復習	・日常生活や学習の過程において、さまざまな生物や生命現象に対し、疑問を持っているか。 ・生物に関するさまざまなデータに基づいて、生命現象を科学的に考察することができる。	○			
	5		「2. 遺伝子とそのはたらき」の復習	・顕微鏡の操作方法や、実験・観察の手順を正しく理解し、正確に行えるようにする。		○		
	6		「3. 生物の体内環境」の復習	・「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」に関連した生物の構造やしぐみについて理解する。				○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	16	「4. 植生の多様性と分布」の復習 「5. 生態系とその保全」の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学習の過程において、さまざまな生物や生命現象に対し、疑問を持っているか。 ・生物に関するさまざまなデータに基づいて、生命現象を科学的に考察することができる。 ・生態系に関する実験、観察が正確な知識に基づいて行えるようにする。 ・「生物の多様性と生態系」に関連した生物の関連性や自然現象について理解する。 	○	○	○	○
	8							
	9							
後期	10	16	全範囲の演習1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した内容を、積極的に復習することができる。 ・グラフや図を含む演習問題について、データを整理し、科学的に考察を行うことができる。 ・実験操作や観察の適切な方法を選択することができる。 ・「生物基礎」で学習した知識を正確に理解し、解答することができる。 	○	○	○	○
	11							
	12							
	1	10	全範囲の演習2	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って演習に取り組むことができる。 ・限られた時間の中で正しく問題を理解し、正答を導き出すことができる。 ・データをグラフや図として表現することができ、それをもとに科学的に結論を導くことができる。 ・これまでに授業で習得した知識を活用して、新たな問題に取り組むことができる。 	○	○	○	○
	2							
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・地学演習	単位数	2単位
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察や実験を通して地学的に探求する能力と態度を養う。地学の基本的な概念などを理解し、科学的な思考力を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:地学基礎改訂版(啓林館) 副教材:センサー地学基礎(啓林館) マーク式基礎問題集改訂版(河合塾) ニューステージ新地学図表(浜島書店)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	地学的な事物・現象に興味や関心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	授業内成果物	20%
b. 思考・判断・表現	地学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査 授業内成果物	40%
c. 技能	地学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	定期考査 授業内成果物	10%
d. 知識・理解	地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。	定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	16	太陽のスペクトルについて	太陽表面やスペクトル観察を通して、太陽活動について探究する。また、恒星としての太陽のすがたと進化を調べる。	○	○	○	
			恒星の一生について	太陽のエネルギー源が核融合反応であることを調べ、恒星の誕生から末期までの進化の過程について探究する。	○	○	○	
			宇宙のすがた	宇宙がビッグバンから誕生し、膨張していることを調べる。銀河系や銀河群、銀河団及び宇宙の大規模構造を調べる。	○	○	○	
			第1回考査		○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	16	大気と海洋	日射量の測定や太陽定数や気象衛星画像の探究活動を行い、科学情報を探究することができるようになる。	○	○	○	
			宇宙の構成	宇宙の誕生と銀河の分布について探究する。太陽の進化を、最初の星間雲から最期の白色わい星までを探究する。	○	○	○	
			地球環境の科学	地球温暖化やエルニーニョ現象をデータに基づいて人間生活と関連づけて探究する。	○	○	○	
			日本の自然環境	日本の季節の気象現象を調べる。多様な自然景観、豊かな水資源や温泉、地下資源を探究し、防災意識を高める。	○	○	○	
			第2回考査		○	○	○	
後期	10 11 12	16	大学入学共通テスト対策	大学入学共通テスト本試験・追試験の過去問題やその他の問題演習を通して、問題分析を進め、実力を養成する。	○	○	○	
			第3回考査			○	○	○
	1 2	10	大学入試共通テスト対策	センター試験本試験・追試験の過去の問題を解き、分析する。大学入試共通テストの新傾向問題を分析する。		○		○

【その他】

- ①本授業は受けるものではなく、参加者全員で創る授業です。主体性をもって参加しましょう。
- ②問いを立てることはABLEだけではなく、地学(科学)ともつながります。常に自分の中に問いを立てましょう。
- ③言葉を暗記するのではなく、常に現象や背景のつながり、仕組みを考えることで、論理的・科学的思考力を鍛えましょう。
- ④「読解」を常に意識して、学びましょう。

年間指導計画表

教科・科目	保健体育・体育	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科 普通・国際コミュニケーションコース 第3学年 男子

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
使用教科書・副教材等	本校体育実技記録ノート 競技ルールのプリント 参考資料 保健体育教科書(体育分野)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	観察	10%
b. 思考・判断・表現	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指した、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	実技ノート 観察	10%
c. 技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	実技テスト	70%
d. 知識・理解	選択して運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的な特性や現代スポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	実技ノート レポート	10%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	18	体育理論	「生涯スポーツの見方・考え方」「スポーツライフスタイル」について学習する。	○	○		○
			体づくり運動	トレーニングについて正しく理解し、基礎的な体力を向上させる。	○	○	○	○
			選択種目 ソフトボール	「打つ」「捕る」「投げる」「走る」という基本動作を複雑に行うことで、巧緻性・敏捷性・筋力・瞬発力を高める。集団としての連帯感や協力して取り組む姿勢を育てる。	○	○	○	○
			選択種目 サッカー	広い範囲を走りまわりながらパスやシュートを行うことで、全身持久力・瞬発力・筋力などを高める。集団としての連帯感や協力して取り組む姿勢を育てる。	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	20	ダンス(民踊)(男女)	教材種目として体育祭で発表する。	○	○	○	○
			選択種目 サッカー	広い範囲を走り回りながらパスやシュートを行うことで、全身持久力・瞬発力・筋力などを高める。集団としての連帯感や協力して取り組む姿勢を育てる。	○	○	○	○
			選択種目 ソフトボール	「打つ」「捕る」「投げる」「走る」という基本動作を複雑に行うことで、巧緻性・敏捷性・筋力・瞬発力を高める。集団としての連帯感や協力して取り組む姿勢を育てる。	○	○	○	○
			体育理論	「日本のスポーツ振興」「スポーツと環境」について学習する。	○	○		○
後期	10 11 12	20	選択種目 サッカー	広い範囲を走り回りながらパスやシュートを行うことで、全身持久力・瞬発力・筋力などを高める。集団としての連帯感や協力して取り組む姿勢を育てる。	○	○	○	○
			選択種目 ソフトボール	「打つ」「捕る」「投げる」「走る」という基本動作を複雑に行うことで、巧緻性・敏捷性・筋力・瞬発力を高める。集団としての連帯感や協力して取り組む姿勢を育てる。	○	○	○	○
			体づくり運動	トレーニングについて正しく理解し、基礎的な体力を向上させる。	○	○	○	○
			テニス	ゲームの中でボール操作やパートナーとの連携などの能力を高めて、勝敗を競う楽しさを味わうことができる。	○	○	○	○
後期	1 2 3	12	テニス	ゲームの中でボール操作やパートナーとの連携などの能力を高めて、勝敗を競う楽しさを味わうことができる。	○	○	○	○
			選択(1)器械運動(男女)	受験に必要な種目を選択して学習する。	○	○	○	○
			(2)陸上競技(男女)					
			(3)球技(男女)					
			(4)武道(男女)					
		(5)ダンス(男女)						
【年間の学習状況の評価方法】 1. 授業への取り組み＝生徒各個人の態度や取り組む姿勢を観察する。 2. 学習ノート・プリント＝実技ノートへの記録の整理やプリントを用いた学習に取り組ませる。 3. テスト＝スキルテストや小テストなどを各単元(種目)で実施する。								

年間指導計画表

教科・科目	保健体育・体育	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科 普通・国際コミュニケーションコース 第3学年 女子

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
使用教科書・副教材等	本校体育実技記録ノート 競技ルールのプリント 参考資料 保健体育教科書(体育分野)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	観察	10%
b. 思考・判断・表現	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指した、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	実技ノート 観察	10%
c. 技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	実技テスト	70%
d. 知識・理解	選択して運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的な特性や現代スポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	実技ノート レポート	10%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	18	体育理論	「生涯スポーツの見方・考え方」「スポーツライフスタイル」について学習する。	○	○		○
			体づくり運動	トレーニングについて正しく理解し、基礎的な体力を向上させる。	○	○	○	○
			選択種目 テニス バドミントン	状況に応じたボールやシャトルの操作、パートナーとの連携を高めるなど、ゲームを展開するなかで勝敗を競う楽しさを味わうことができる。	○	○	○	○
					○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	20	ダンス(民踊)(男女)	教材種目として体育祭で発表する。	○	○	○	○
			選択種目 テニス バドミントン	状況に応じたボールやシャトルの操作、パートナーとの連携を高めるなど、ゲームを展開するなかで勝敗を競う楽しさを味わうことができる。	○	○	○	○
			体育理論	「日本のスポーツ振興」「スポーツと環境」について学習する。	○	○		○
後期	10 11 12	20	選択種目 テニス バドミントン	状況に応じたボールやシャトルの操作、パートナーとの連携を高めるなど、ゲームを展開するなかで勝敗を競う楽しさを味わうことができる。	○	○	○	○
			体づくり運動	トレーニングについて正しく理解し、基礎的な体力を向上させる。	○	○	○	○
			ソフトバレーボール	柔らかいボールを使い、ゲームを中心に行う。	○	○	○	○
	1 2 3	12	ソフトバレーボール	柔らかいボールを使い、ゲームを中心に行う。	○	○	○	○
			選択(1)器械運動(男女) (2)陸上競技(男女) (3)球技(男女) (4)武道(男女) (5)ダンス(男女)	受験に必要な種目を選択して学習する。	○	○	○	○
【年間の学習状況の評価方法】 1. 授業への取り組み＝生徒各個人の態度や取り組む姿勢を観察する。 2. 学習ノート・プリント＝実技ノートへの記録の整理やプリントを用いた学習に取り組ませる。 3. テスト＝スキルテストや小テストなどを各単元(種目)で実施する。								

年間指導計画表

教科・科目	芸術・音楽Ⅲ	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
使用教科書・副教材等	音楽Ⅲ 教育出版 単元に応じてワークシートを配付

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a 音楽への関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	観察 ワークシート	10%
b 音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	観察 ワークシート	20%
c 音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表現している。	実技テスト	60%
d 鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	観察 ワークシート	10%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	18	ふるさと 平城山	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に歌う。	○	○	○	
			Nina	表現上の効果を生かして歌う。	○	○	○	
			Lacia ch'io pianga	音楽を形づくっている要素を知覚・感受し理解して歌う。	○	○	○	
			楽典&ソルフェージュ	音楽を形づくっている要素を正しくとらえる。	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	金比羅船々	リズムの特徴を感じながら楽器の音色を工夫して演奏する。	○	○	○	
			トウーランドット	音楽の構造上の特徴とうつくしさとのかかわりを理解して鑑賞する。	○			○
			世界の音楽めぐり	諸外国の音楽の特徴を理解して鑑賞する。	○			○
			ブルースを使って創作	表現意図をもって個性豊かに音楽をつくる。	○	○	○	
後期	10 11 12	16	ピアノ演習	専門的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。	○	○	○	○
			・ブルグミュラー ・インベンション 音楽史	我が国及び諸外国の音楽の歴史について理解を深め、多様な音楽の文化的価値をとらえる能力を養う。	○			○
後期	1 2	14	演奏研究	演奏における客観性と多様性を理解し、音楽の様式を尊重して演奏する能力を養う。	○	○	○	○
			音楽理論	基礎的な理論を理解し、表現と鑑賞に活用する能力を養う。	○	○		
			課題研究・発表	音楽や音楽文化を尊重する態度を養う。	○	○	○	○
【その他】 進路で音楽が必要な可能性がある人は必ず履修してください。 音楽関係の大学に進学を考えている人、入試に音楽の実技がある人は早めに教科担当者に相談してください。								

年間指導計画表

教科・科目	芸術・美術Ⅲ	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科・普通文型3年 普通科・国際コミュニケーションコース3年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
使用教科書・副教材等	高校生の美術3(日本文教出版)・自主教材

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	観察 ワークシート 発表	40%
b. 美術表現の構想と工夫	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ主題を生成し、創造的な表現を練っている。	観察 ワークシート 作品	20%
c. 創造的な美術表現の技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫、創造的に表している。	作品	30%
d. 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わっている。	観察 ワークシート 発表	10%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	2	オリエンテーション	美術Ⅲの目標を理解する。	○			
		8	素描1	基礎的な空間・質感表現の技術を高める。	○		○	
		8	素描2	応用的な空間・質感表現の技術を高める。	○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	9	素描 3	多様な空間・質感表現の技術を高める。	○		○	
		9	色彩構成・静物画・人物画	・造形要素を理解し、色彩の生かし方を学習する。 ・色彩による空間的表現を学習する。	○	○	○	
後期	10 11 12	17	色彩構成・静物画・人物画	・主題を表現するために構図や色彩の生かし方を工夫する。	○	○	○	
		1	作品鑑賞	・作者の意図や表現の工夫を理解する。	○			○
	1 2	5	素描 4	・自分自身の素描表現を工夫する。 ・完成度を高める。	○	○	○	
		5	素描 5	・他者に伝わる素描表現を工夫する。 ・完成度をを高める。	○	○	○	
1		まとめ	美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲをふり帰り、磨いた美術の能力を確かめる。	○			○	
【その他】 最も基本的な表現活動である挨拶を大切にしてください。そして、自主的に美術館や画廊に出かけたり、身の回りのデザインに注目しましょう。また、美術系進学志望の人は、美術部を活用したり、美術担当教諭に相談してください。								

年間指導計画表

教科・科目	芸術・総合芸術	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
使用教科書・副教材等	音楽Ⅲ 教育出版 単元に応じてワークシートを配付

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a 音楽への関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	観察 ワークシート	10%
b 音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	観察 ワークシート	20%
c 音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表現している。	実技テスト	60%
d 鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	観察 ワークシート	10%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	18	平城山 コンコーネ	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に歌う。	○	○	○	
			Nina	表現上の効果を生かして歌う。	○	○	○	
			コールユーブンゲン	音楽を形づくっている要素を知覚・感受し理解して歌う。	○	○	○	
			楽典&ソルフェージュ	音楽を形づくっている要素を正しくとらえる。	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	金比羅船々	リズムの特徴を感じながら楽器の音色を工夫して演奏する。	○	○	○	
			トウーランドット	音楽の構造上の特徴とうつくしさとのかかわりを理解して鑑賞する。	○			○
			世界の音楽めぐり	諸外国の音楽の特徴を理解して鑑賞する。	○			○
			ブルースを使って創作	表現意図をもって個性豊かに音楽をつくる。	○	○	○	
後期	10 11 12	16	ピアノ演習	専門的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。	○	○	○	○
			・インベンション ・ベートーヴェンソナタ					
	音楽史	我が国及び諸外国の音楽の歴史について理解を深め、多様な音楽の文化的価値をとらえる能力を養う。	○			○		
後期	1 2	14	演奏研究	演奏における客観性と多様性を理解し、音楽の様式を尊重して演奏する能力を養う。	○	○	○	○
			音楽理論	基礎的な理論を理解し、表現と鑑賞に活用する能力を養う。	○	○		
			課題研究・発表	音楽や音楽文化を尊重する態度を養う。	○	○	○	○
【その他】 進路で音楽が必要な可能性がある人は必ず履修してください。 音楽関係の大学に進学を考えている人、入試に音楽の実技がある人は早めに教科担当者に相談してください。								

年間指導計画表

教科・科目	芸術・総合芸術	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科・普通文型3年 普通科・国際コミュニケーションコース3年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
使用教科書・副教材等	・スーパー鉛筆デッサンわかりやすい基本の基本徹底ガイド(絵画技法研究会) ・自主教材

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	観察 ワークシート 発表	40%
b. 美術表現の構想と工夫	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ主題を生成し、創造的な表現を練っている。	観察 ワークシート 作品	20%
c. 創造的な美術表現の技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫、創造的に表している。	作品	30%
d. 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わっている。	観察 ワークシート 発表	10%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	2	オリエンテーション	美術Ⅲの目標を理解する。	○			
		8	素描1	基礎的な空間・質感表現の技術を高める。	○		○	
		8	素描2	構図を考え、空間・質感表現の技術を高める。	○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	9	素描 3	応用的な空間・質感表現の技術を高める。	○		○	
		9	色彩構成・絵画	・造形要素を理解し、色彩の生かし方を学習する。 ・色彩による空間的表現を学習する。	○	○	○	
後期	10 11 12	9	構成と立体	・主題を表現するための構成を工夫する。	○	○	○	
		1	作品鑑賞	・作者の意図や表現の工夫を理解する。	○			○
		8	素描 4	多様な空間・質感表現の技術を高める。	○		○	
	1 2	5	素描 5	・自分自身の素描表現を工夫する。 ・完成度を高める。	○	○	○	
		5	素描 6	・他者に伝わる素描表現を工夫する。 ・完成度をを高める。	○	○	○	
	1 2	1	まとめ	総合芸術をふり帰り、磨いた美術の能力を確かめる。	○			○
【その他】 最も基本的な表現活動である挨拶を大切にしてください。そして、自主的に美術館や画廊に出かけたり、身の回りのデザインに注目しましょう。また、美術系進学志望の人は、美術部を活用したり、美術担当教諭に相談してください。								

年間指導計画表

教科・科目	外国語・コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。
使用教科書・副教材等	『Element English Communication III』（啓林館） 『必携英単語LEAP』（数研出版） 『Cutting Edge - Blue - 大学入試長文読解問題集』（Emile） 『2023共通テスト対策重要問題演習 英語リスニング』（Learn-S） 『2023共通テスト対策直前演習 英語リスニング』（Learn-S） 『2023共通テスト対策直前演習 英語リーディング』（Learn-S） 選択 『大学入試完全攻略講座④英語長文問題演習【入門編】・【入門編Plus】』（桐原書店） 『大学入試完全攻略講座①英語長文問題演習【必修編】・【必修編Plus】』（桐原書店）

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	提出物	25%
b. 外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	提出物、小テスト、パフォーマンステスト、定期考査	25%
c. 外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	提出物、小テスト、パフォーマンステスト、定期考査	25%
d. 言語や文化についての知識・理解	英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を実につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	提出物、小テスト、パフォーマンステスト、定期考査	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	Discourse Navigator1・2	1. ミクロパラグラフ・パラグラフ内の構造をつかむ 2. マクロパラグラフ・パラグラフ間の構造をつかむ				○
			Lesson 1 Lies, Damned Lies, and Statistics	1. 数値データをもとに論じている様々な社会問題についての話を聞いたり、読んだりして、問いに答えるのに必要な情報だけをつかむ 2. グラフや表を見て、適切な表現を用いながら英語で描写する				
			Lesson2 Language Extinction	[Speaking] グラフや表を見ながらメモなどの準備ができれば70wpmの速さで描写したり、それについて意見を言ったりすることができる [Writing] 辞書を使わずに20分で80字程度の英語で段落間の構成を意識しながら意見を書くことができる [Reading] 数値データをもとに論じている様々な社会問題についての話(2級程度)を100wpmで読み、必要な情報を掴むことができる [Listening] 大まかな情報を聞いて理解する。必要な情報だけを聞き取ることができる	○	○		
			Lesson3 Environment or Orangutans?					
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	Discourse Navigator3・4	3. 例示・追加・列挙のパラグラフ展開とディスコースマーカー 4. 批評読み(クリティカルリーディング)				○
			Lesson4 The Truth about Grit Lesson5 A Class from Stanford University	1. 「事実」と「意見」、「一般化した概念」を区別しながら、教育に関する文章を読んだり聞いたりして、自分が意見するのに必要な情報を批判的に得ることができる 2. 読んだことを踏まえて、自分の意見を構成(パラグラフライティング/スピーキングからエッセイライティング/スピーキングへ移行する)を意識して伝えることができる [Speaking] 読んだことをメモなどの準備ができれば70wpmの速さで、それについて意見を言うことができる [Writing] グラフや表を見ながら辞書を使わずに20分で60語程度の英語で描写することができる [Reading] 教育に関する様々な社会問題についての話(準1級程度)をディスコースマーカーに気を付けながら読み、「事実」と「意見」、「一般化した概念」を区別しながら必要な情報を掴むことができる [Listening] 教育に関する話を聞いて、問いに答えるのに必要な情報を得ることができる			○	○
			第2回考査			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
後期	10 11 12	35	Discourse Navigator5・6・8	5. 比較・対照のパラグラフ展開とディスコースマーカー 6. 原因・結果のパラグラフ展開とディスコースマーカー 8. 未知語の推測				○
			Lesson 6 The Mpemba Effect Lesson7 Invisible Gorilla Lesson 10 All the Good things	1. 「因果関係」や「比較対照」を意識しながら、科学に関する文章を読んだり聞いたりして、ディベートするのに必要な情報を批判的に得ることができる 2. 読んだことを踏まえて、自分の意見を因果関係を意識して伝えることができる 3. 様々な随筆文を読んで、条件に応じて要約したり、必要な情報を取り出してまとめることができる [Speaking] 読んだことをメモなどの準備ができれば80wpmの速さで、それについて意見を言うことができる [Writing] 辞書を使わずに20分で80字程度の英語で因果関係や比較対照を意識しながら意見を書くことができる [Reading] 科学に関する様々な社会問題についての話(準1級程度)をディスコースマーカーに気を付けながら読み、「事実」と「意見」、「一般化した概念」を区別しながら必要な情報を掴むことができる [Listening] 130wpmで科学に関する話を聞いて、問いに答えるのに必要な情報を得ることができる			○	
			第3回考査			○	○	○

【その他】

社会生活で活用できるレベルの英語力の基盤を培います。

年間指導計画表

教科・科目	外国語・英語表現Ⅱ	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書いたり話したりする能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ることができるようにする。
使用教科書・副教材等	『be English Expression Ⅱ』(いいずな書店) <2年次からの継続> 『Breakthrough総合英語』(美誠社) <2年次からの継続> 『大学入試システム英作文』(桐原書店) <2年次からの継続> 『Active Writing Complete Course』(第一学習社) 『パターンで書けるFRAME自由英作文』(数研出版)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション能力を図ろうとする。間違えることを恐れず、自分の考えなどを表現しようとする。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表	25%
b. 外国語表現の能力	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表、定期考査	50%
c. 言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表、定期考査	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
前期	4 5 6	17	Lesson 1 夢・将来(時の表し方) Lesson 2 文化・行事(動詞と文の構造) Lesson 3 ペット(助動詞) Lesson 4 情報と社会(名詞と限定詞) Lesson 5 世界の国々(代名詞) Lesson 6 外国での生活(名詞句と名詞節) Lesson 7 利便性(形容詞) Lesson 8 幸福(形容詞句)	各レッスンの“Practice”を中心に、英文を読んだり聞いたりして内容を理解したうえで、学習内容記載の表現テクニックを使って、文を自分で書いたり、話したりして相手に伝えたりできる。 より幅広い話題・場面・状況において50wpm程度の速さで即興で話すことができる。 与えられた話題について、10分間で70~80語程度の文章を書くことができる。	○	○	○
			第1回考査	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c
前期	7 8 9	18	Lesson 9 活動(形容詞節・関係詞節) Lesson 10 社会的慣習(副詞) Lesson 11 思い出(副詞句) Lesson 12 電子機器(副詞節) Lesson 13 進路(比較) Lesson 14 想像(仮定法) Lesson 15 教訓(複文での動詞の使い方) Lesson 16 コミュニケーション(「言う」「見る」「聞く」の表現) Lesson 17 社会問題(認識の表現)	各レッスンの“Practice”を中心に、英文を読んだり聞いたりして内容を理解したうえで、学習内容記載の表現テクニックを使って、文を自分で書いたり、話したりして相手に伝えたりできる。 より幅広い話題・場面・状況において50wpm程度の速さで即興で話すことができる。 与えられた話題について、10分間で80~90語程度の文章を書くことができる。	○	○	○
			Lesson 18 生活と住居(許可・提案・勧誘・依頼・要望の表現) Lesson 19 旅行(存在や変化の表現) Lesson 20 健康(「させる」「される」の表現) Lesson 21 興味・関心(日本語とは違う表現方法) ○Paragraph Writing	各レッスンの“Practice”を中心に、英文を読んだり聞いたりして内容を理解したうえで、学習内容記載の表現テクニックを使って、文を自分で書いたり、話したりして相手に伝えたりできる。与えられたテーマで自分の表現したいことを段落の形で表現することができる。 より幅広い話題・場面・状況において50wpm程度の速さで即興で話すことができる。 与えられた話題について、10分間で80~90語程度の文章を書くことができる。	○	○	○
後期	10 11 12	18	○Paragraph Writing	与えられたテーマで自分の表現したいことを段落の形でまとめることができる。 与えられた話題について、10分間で80~90語程度の文章を書くことができる。	○	○	○
			○Paragraph Writing	与えられたテーマで自分の表現したいことを段落の形でまとめることができる。 与えられた話題について、10分間で80~90語程度の文章を書くことができる。	○	○	○
【その他】 前期では、教科書を使って、学習指導要領が定める「事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす」ことをめざし、2年生のときより精選したアウトプットを行っていきます。その際、必要に応じて既習の文法項目を見ながら1・2年次にで習ったことを「使える」ようになっていきます。後期では、段落ごとに構成を考えながらエッセイをまとめられるようにしていきます。							

年間指導計画表

教科・科目	英語・英語理解	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。
使用教科書・副教材等	『Element English Communication III』（啓林館） 『必携英単語LEAP』（数研出版） 『Cutting Edge - Blue - 大学入試長文読解問題集』（Emile） 『2023共通テスト対策重要問題演習 英語リスニング』（Learn-S） 『2023共通テスト対策直前演習 英語リスニング』（Learn-S） 『2023共通テスト対策直前演習 英語リーディング』（Learn-S） 選択 『大学入試完全攻略講座④英語長文問題演習【入門編】・【入門編Plus】』（桐原書店） 『大学入試完全攻略講座①英語長文問題演習【必修編】・【必修編Plus】』（桐原書店）

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	提出物	25%
b. 外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	提出物、小テスト、パフォーマンステスト、定期考査	25%
c. 外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	提出物、小テスト、パフォーマンステスト、定期考査	25%
d. 言語や文化についての知識・理解	英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を実につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	提出物、小テスト、パフォーマンステスト、定期考査	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	Discourse Navigator1・2	1. ミクロパラグラファーパラグラフ内の構造をつかむ 2. マクロパラグラファーパラグラフ間の構造をつかむ				○
			Lesson 1 Lies, Damned Lies, and Statistics	1. 数値データをもとに論じている様々な社会問題についての話を聞いたり、読んだりして、問いに答えるのに必要な情報だけをつかむ 2. グラフや表を見て、適切な表現を用いながら英語で描写する				
			Lesson2 Language Extinction	[Speaking] グラフや表を見ながらメモなどの準備ができれば70wpmの速さで描写したり、それについて意見を言ったりすることができる [Writing] 辞書を使わずに20分で80字程度の英語で段落間の構成を意識しながら意見を書くことができる [Reading] 数値データをもとに論じている様々な社会問題についての話(2級程度)を100wpmで読み、必要な情報を掴むことができる [Listening] 大まかな情報を聞いて理解する。必要な情報だけを聞き取ることができる	○	○		
			Lesson3 Environment or Orangutans?					
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	Discourse Navigator3・4	3. 例示・追加・列挙のパラグラフ展開とディスコースマーカー 4. 批評読み(クリティカルリーディング)				○
			Lesson4 The Truth about Grit Lesson5 A Class from Stanford University	1. 「事実」と「意見」、「一般化した概念」を区別しながら、教育に関する文章を読んだり聞いたりして、自分が意見するのに必要な情報を批判的に得ることができる 2. 読んだことを踏まえて、自分の意見を構成(パラグラフライティング/スピーキングからエッセイライティング/スピーキングへ移行する)を意識して伝えることができる [Speaking] 読んだことをメモなどの準備ができれば70wpmの速さで、それについて意見を言うことができる [Writing] グラフや表を見ながら辞書を使わずに20分で60語程度の英語で描写することができる [Reading] 教育に関する様々な社会問題についての話(準1級程度)をディスコースマーカーに気を付けながら読み、「事実」と「意見」、「一般化した概念」を区別しながら必要な情報を掴むことができる [Listening] 教育に関する話を聞いて、問いに答えるのに必要な情報を得ることができる			○	○
			第2回考査			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
後期	10 11 12	35	Discourse Navigator5・6・8	5. 比較・対照のパラグラフ展開とディスコースマーカー 6. 原因・結果のパラグラフ展開とディスコースマーカー 8. 未知語の推測				○
			Lesson 6 The Mpemba Effect Lesson7 Invisible Gorilla Lesson 10 All the Good things	1. 「因果関係」や「比較対照」を意識しながら、科学に関する文章を読んだり聞いたりして、ディベートするのに必要な情報を批判的に得ることができる 2. 読んだことを踏まえて、自分の意見を因果関係を意識して伝えることができる 3. 様々な随筆文を読んで、条件に応じて要約したり、必要な情報を取り出してまとめることができる [Speaking] 読んだことをメモなどの準備ができれば80wpmの速さで、それについて意見を言うことができる [Writing] 辞書を使わずに20分で80字程度の英語で因果関係や比較対照を意識しながら意見を書くことができる [Reading] 科学に関する様々な社会問題についての話(準1級程度)をディスコースマーカーに気を付けながら読み、「事実」と「意見」、「一般化した概念」を区別しながら必要な情報を掴むことができる [Listening] 130wpmで科学に関する話を聞いて、問いに答えるのに必要な情報を得ることができる			○	
			第3回考査			○	○	○

【その他】

社会生活で活用できるレベルの英語力の基盤を培います。

年間指導計画表

教科・科目	英語・英語表現	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書いたり話したりする能力を更に伸ばすとともに、事実や他者の意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えることができる。
使用教科書・副教材等	『21st Century Communication Listening, Speaking, and Critical Thinking』(National Geographic Learning) <CTクラス: 継続使用> 『The Culture Map』(PUBLIC AFFAIRS) <ATクラス: 継続使用> 『Breakthrough総合英語』(美誠社) <全員: 継続使用> 『大学入試システム英作文』(桐原書店) <全員: 継続使用> 『Active Writing Complete Course』(第一学習社) <全員> 『パターンで書けるFRAME自由英作文』(数研出版) <全員>

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	与えられた課題に対して推測や質問などによって理解を深めようとするとともに、積極的に話す書くなどして、主体的に課題に取り組もうとする。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表	25%
b. 外国語表現の能力	伝えようとする事実や意見などを、相手に分かりやすく、適切な英語表現を用いて、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えている。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表、定期考査	50%
c. 言語や文化についての知識・理解	理解や表現の際に必要な英語の語彙・文法・構文・文章構成の知識、および世界情勢や異文化の背景知識を持っている。	小テスト、ワークシート、エッセイ、発表、定期考査	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	
前期	4 5 6	17	<ATクラス> Lesson 1 :Low-Context vs High Context Culture Lesson 2: Different Ways of Feedback <CTクラス> Unit 1 : Small Actions, Big Results Unit 2 : Connecting to Nature	①授業最初の3分程度で、10問の文法、英作の小テストを解くことで、英語の知識を定着をさせる。 ②与えられたテーマに対して、興味を持ち、積極的に英語で話そうとする。 ③ペアやグループトークの中で、既習の文法、語彙を用いて、幅広い話題について英語で表現する。 ④140wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話し手の意向などを7割程度理解する。 ⑤テーマに沿った単語や必要な表現の運用方法を身に付ける。 ⑥様々な話題について、辞書を使って約10分で80語程度の文章を書く。 第1回考査	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c
前期	7 8 9	18	<p><ATクラス> Lesson 3 : Cultural Differences in Persuasion Lesson 4: Respect and Power Differences</p> <p><CTクラス> Unit 3 :Going Places Unit 4 : Music, Music Everywhere</p>	<p>①授業最初の3分程度で、10問の文法、英作の小テストを解くことで、英語の知識を定着させる。</p> <p>②与えられたテーマについて英語で質問したり、他者との対話によって内容理解に積極的に取り組む姿勢を養う。</p> <p>③グループによるプレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイの中で、相手に興味を持たせるような表現で、自分の意見などを適切な英語で表現する。</p> <p>④140wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話し手の意向などを7割程度理解する。</p> <p>⑤英語の表現に適した、非言語のコミュニケーション方法を運用する。</p> <p>⑥様々な話題について、辞書を使って約10分で80語程度の文章を書く。</p> <p>第2回考査</p>	○		○
			<p><ATクラス> Lesson 5 : Decision-Making Processes Lesson 6: Multicultural Trust Building</p> <p><CTクラス> Unit 5 :Give Thanks Unit 6 : Tell Me Why...</p>	<p>①授業最初の3分程度で、10問の文法、英作の小テストを解くことで、英語の知識を定着させる。</p> <p>②与えられたテーマについて積極的に調査し、その内容をペアやグループで共有するなど、主体的に取り組む。</p> <p>③グループによるプレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイの中で、相手に伝わりやすい、論理的な構成で、自分の意見などを適切に表現する。</p> <p>④140wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話し手の意向などを8割程度理解する。</p> <p>⑤より相手に伝わりやすい論理的な文章構成を身に付ける。</p> <p>⑥様々な話題について、辞書を用いず約12分で100語程度の文章を書く。</p> <p>第3回考査</p>	○		○
後期	1 2 3	17	<p><ATクラス> Lesson 7 : Effective Disagreement Lesson 8: Research</p> <p><CTクラス> Unit 7 :The Livable City Unit 8 : Life Lessons</p>	<p>①授業最初の3分程度で、10問の文法、英作の小テストを解くことで、英語の知識を定着させる。</p> <p>②他者の発表を積極的に聞き、その内容に即した質問や、内容が展開するような発言をする。</p> <p>③自他の発表において、客観的に評価し、改善を試みる。</p> <p>③グループ・個人によるプレゼンテーション、ディスカッション、スピーチにおいて、説得力のある論理的な構成で、自分の意見などを適切に表現する。</p> <p>④140wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話し手の意向などを8割程度理解する。</p> <p>⑤与えられたテーマに必要な英語表現、テーマに適した文章構成を身に付ける。</p> <p>⑥様々な話題について、辞書を用いず約12分で100語程度の文章を書く。</p> <p>第4回考査</p>	○	○	○
【その他】							

年間指導計画表

教科・科目	英語・コミュニケーション	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科・第3学年・国際コミュニケーションコース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語によるコミュニケーション活動を通して、賛否両論のある問題に積極的に関わり、互いの意志疎通と協議を活発に行おうとする積極的態度を養うとともに、論点を的確に把握する理解能力と、論理的かつ効果的に意見を述べる表現能力を身につけ、英語で議論する能力を向上する。
使用教科書・副教材等	『Element English Communication I』(啓林館) 自作教材

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業内活動 授業内発表	25%
b. 外国語表現の能力	身近な問題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	授業内発表 レポート 論文	25%
c. 外国語理解の能力	身近な問題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを英語で理解する。	授業内発表 レポート 論文	25%
d. 言語や文化についての知識・理解	身近な問題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	授業内発表 レポート 論文	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
期前	4 5	17	理由付け 論点の把握 学術英語の書き方・話し方(基礎)	賛否を英語で述べる際に、具体的な理由付けができるようになる。 様々なジャンルの英文を読んで論点を素早く正確に把握できるようになる。 普段の英語を学術英語に書き換えたり話し換えたりできるようになる。 (考査は実施せず、レポート提出を課す)	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	盗用について	リサーチプロジェクトにおいて必要な盗用に関する知識を英語で学ぶ。				○
			引用について	リサーチプロジェクトにおいて必要な引用に関する知識を英語で学ぶ。				○
			リサーチプロジェクト	与えられたテーマに基づくディスカッションを通して、自分なりの意見をまとめる力を養うとともに、1000語程度の英文で論文にまとめる (考査は実施せず、レポート提出を課す)		○		○
後期	10 11 12	18	リサーチプロジェクト	与えられたテーマに基づくディスカッションを通して、自分なりの意見をまとめる力を養うとともに、1000語程度の英文で論文にまとめる		○		○
			英語の方言	様々な英語を聞いたり読んだりして、書いたり話したりできるようになる。		○	○	○
				(考査は実施せず、論文提出を課す)		○	○	○
	1 2	10	リサーチプロジェクト	与えられたテーマに基づくディスカッションを通して、自分なりの意見をまとめる力を養うとともに、1000語程度の英文で論文にまとめる		○		○
【その他】 副教材の補充として必要に応じたプリント教材を使用する。								

年間指導計画表

教科・科目	英語・時事英語	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1)TV・新聞・雑誌・情報通信ネットワークなどに使われる英語の基礎的な知識と技術を習得する。 (2)多様な話題について理解することができ、社会問題などについて客観的な視点を持ちながら英語で表現することができる。
使用教科書・副教材等	『Element English Communication I』(啓林館) 『CNN Comprehensive Trainer 2022(朝日出版社)』 英字新聞、TV、インターネット上の資料等

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	ループリック ポートフォリオ	10%
b. 外国語表現の能力	社会問題などの多様な話題・場面・状況において、自分の意見や考えを伝えることができる。	パフォーマンス テスト	50%
c. 外国語理解の能力	180WPM程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話し手の意向などを8割程度理解できる。また、英字新聞の記事等を読んで8割程度理解できる。	定期考査	20%
d. 言語や文化についての知識・理解	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査	20%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	16	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールトーク ・ニュース等の読みとり、聞きとり ・プレゼンテーション① ・ポートフォリオ 	①スピーキングへの慣れを養う ②180wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話し手の意向などを8割程度理解できる。また、英字新聞の記事等を8割程度理解できる。 ③必要な情報を選び活用する基礎的な能力を養い、また聴衆を惹きつけるプレゼンテーションの技術を身に付ける。 ④授業やプレゼンへの取り組みで努力したことや学んだことを記入し、今後の授業やプレゼンに活かしていく。 第1回考査	○	○	○	○
	5 6				○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	16	・スモールトーク ・ニュース等の読みとり、聞きとり ・プレゼンテーション② ・ポートフォリオ	①スピーキングへの慣れを養う ②180wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話しての意向などを8割程度理解できる。また、英字新聞の記事等を8割程度理解できる。 ③必要な情報を選び活用する基礎的な能力を養い、また聴衆を惹きつけるプレゼンテーションの技術を身に付ける。 ④授業やプレゼンへの取り組みで努力したことや学んだことを記入し、今後の授業やプレゼンに活かしていく。 第2回考査	○	○	○	○
後期	10 11 12	16	・スモールトーク ・ニュース等の読みとり、聞きとり ・読みとったり、聞き取ったりしたニュース等について話す ・プレゼンテーション③ ・ポートフォリオ	①スピーキングへの慣れを養う ②180wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話しての意向などを8割程度理解できる。また、英字新聞の記事等を8割程度理解できる。 ③理解した情報をもとに情報発信をする能力を養う。 ④必要な情報を選び活用する基礎的な能力を養い、また聴衆を惹きつけるプレゼンテーションの技術を身に付ける。 ⑤授業やプレゼンへの取り組みで努力したことや学んだことを記入し、今後の授業やプレゼンに活かしていく。 第3回考査	○	○	○	○
	1	10	・スモールトーク ・ニュース等の読みとり、聞きとり ・読みとったり、聞き取ったりしたニュース等について話す ・マイクロディベート ・ポートフォリオ	①スピーキングへの慣れを養う ②180wpm程度の速度で話される英語を聞いて、情報や話しての意向などを8割程度理解できる。また、英字新聞の記事等を8割程度理解できる。 ③理解した情報をもとに情報発信をする能力を養う。 ④あるトピックについて、自分の意見を理由や根拠とともに伝える力を養う。 ⑤1年間の授業で学んだことやできるようになったことを振り返る。	○	○	○	○
【その他】 普段から国内外のニュースに広く興味を持ち、そのニュースに対して自分の考えや意見を持つことが大切です。そして、その考えや意見を英語で発信できるように訓練するのがこの時事英語の授業で取り組むことです。また、プレゼンテーションのノウハウを学び、実際にプレゼンの発表をします。								

年間指導計画表

教科・科目	英語・通訳演習	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科・第3学年・国際コミュニケーションコース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を日本語に、日本語を英語に正しく的確に通訳することができるような基礎的な力をつけ、その運用ができるようにする。
使用教科書・副教材等	・『Developing Interpreting Skills for Communication <Revised Edition>』（南雲堂） ・自作プリント

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・ニュース記事、物語文、論説文など、英語を用いた様々な題材に幅広い関心を持ち、その内容について正しく解釈しようとする意欲を持っている。 ・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて英語を読み、話そうとしている。	・定期考査(面接)の得点 ・各種パフォーマンスでの評価点 ・授業中の様々な表現活動	25%
b. 外国語表現の能力	・英語で話される情報や考えを正しく聴き取り、目的に応じて解釈できる。 ・英語で書かれている情報や考えを正しく読み取り、目的に応じて解釈できる。 ・読み取ったり聞き取った内容について、英語や日本語で要約したり解釈したりすることができる。	・定期考査の得点 ・各種パフォーマンスでの評価点 ・授業中の様々な表現活動	25%
c. 外国語理解の能力	・読解、聴解のために必要な語彙能力、文法知識を習得している。 ・多様なリーディング・ストラテジー、リスニング・ストラテジーを持っている。 ・自らの意図や気持ちを的確に伝えるための語彙を始めとする適切な表現力を持っている。	・定期考査の得点 ・各種パフォーマンスでの評価点 ・授業中の様々な表現活動	25%
d. 言語や文化についての知識・理解	英語とその運用についての知識を身につけるとともにその背景にある文化などを理解している。	・定期考査の得点 ・各種パフォーマンスでの評価点 ・授業中の様々な表現活動	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・パワーアップ ・リピーティング① ・単語クイック・レスポンス ・セグメント判断 ・数字クイック・レスポンス ・シャドーイング ・頭ごなし訳のテクニック① ・頭ごなし訳のテクニック② ・サイト・トランスレーション ・リテンション練習 ・通訳メモ 	<ul style="list-style-type: none"> ①速聴訓練の一環として音読速度を高める ②くり返して聞き、くり返して音声化することによって瞬時に訳出できるまで語句や表現を定着させる ③即時反応訓練により正確で自然な訳出の基礎となる語彙増強を図る ④英語の語順でセンテンスを理解する練習により、英語による発想法を習熟させる ⑤長い文章を訳出する際必要となる短期記憶能力を高める 				○
					第1回考査	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・パワーアップ ・区切り聞き① ・単語クイック・レスポンス ・セグメント判断 ・数字クイック・レスポンス ・シャドーイング ・頭ごなし訳のテクニック① ・頭ごなし訳のテクニック② ・サイト・トランスレーション ・リテンション練習 ・通訳メモ 	①速聴訓練の一環として音読速度を高める ②くり返して聞き、くり返して音声化することによって瞬時に訳出できるまで語句や表現を定着させる ③即時反応訓練により正確で自然な訳出の基礎となる語彙増強を図る ④英語の語順でセンテンスを理解する練習により、英語による発想法を習熟させる ⑤長い文章を訳出する際必要となる短期記憶能力を高める 第2回考査	○	○	○	○
後期	10 11 12	18	<ul style="list-style-type: none"> ・区切り聞き② ・リプロダクション ・短いパラグラフ逐次通訳 ・ワンセンテンス遅れの通訳練習 ・簡単な同時通訳 	①リスニング、リテンション、構文組立、表現力、デリバリーの総合練習を通じて、自分の言葉で表現する技能を高める ②記憶を整理しながら情報を保持する練習を行なう ③直聴直解したものを口答訳出することによって即時的表現力を総合的に高める 第3回考査	○	○	○	○
	1 2	10	<ul style="list-style-type: none"> ・リプロダクション ・短いパラグラフ逐次通訳 ・ワンセンテンス遅れの通訳練習 ・簡単な同時通訳 	①リスニング、リテンション、構文組立、表現力、デリバリーの総合練習を通じて、自分の言葉で表現する技能を高める ②記憶を整理しながら情報を保持する練習を行なう ③直聴直解したものを口答訳出することによって即時的表現力を総合的に高める	○	○	○	○
【その他】 『通訳演習』は、通訳技能のトレーニングを行うことによって、シャドーイングとサイトトランスレーションを中心に、コミュニケーション手段としての英語総合力を磨く。								

年間指導計画表

教科・科目	英語・英語演習	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1)英語の「読む」「書く」「話す」という技術向上のために、文法・語法の知識を身につける。 (2)正しい文法・語法を学習し、実践的な読解力・表現力を身につける。
使用教科書・副教材等	『be English Expression II』(いいずな書店) 『Breakthrough Upgraded 改訂二版』(美誠社) 『Vintage 3rd. Edition 準拠実践問題集 Drive』(いいずな書店)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	提出物	25%
b. 外国語表現の能力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	提出物、小テスト、定期考査	25%
c. 外国語理解の能力	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	提出物、小テスト、定期考査	25%
d. 言語や文化についての知識・理解	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を実につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	提出物、小テスト、定期考査	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	22	時制・受動態・助動詞 仮定法・不定詞 動名詞・分詞 関係詞	・これまでに学習した文法・語法・構文を活用して、正確に英文を理解したり、表現したりすることができるようになる。 第1回考査	○	○	○	○
					○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	16	接続詞・前置詞・比較 主語と述語動詞の一致 疑問文・否定 語順(倒置)・省略・強調 話法	・これまでに学習した文法・語法・構文を活用して、正確に英文を理解したり、表現したりすることができるようになる。 第2回考査	○	○	○	○
							○	○
後期	10 11 12	14	動詞の語法、名詞の語法、代名詞の語法、 形容詞の語法、副詞の語法 イディオム	・これまでに学習した文法・語法・構文を活用して、正確に英文を理解したり、表現したりすることができるようになる。 第3回考査	○	○	○	○
							○	○
	1 2	10	会話表現 語彙問題 重要多義語	・これまでに学習した文法・語法・構文を活用して、正確に英文を理解したり、表現したりすることができるようになる。	○	○	○	○
【その他】 英語の運用能力の向上のために、文法や語法の正確な理解に基づいた運用面の向上を目指して、積極的に演習を重ねましょう。								

年間指導計画表

教科・科目	英語・異文化理解	単位数	1
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語「模擬国連」によるコミュニケーション活動を通して、賛否両論のある問題に積極的に関わり、互いの意志疎通と協議を活発に行おうとする積極的態度を養うとともに、論点を的確に把握する理解能力と、論理的かつ効果的に意見を述べる表現能力を身につけ、英語で議論する能力を向上する。
使用教科書・副教材等	『Element English Communication Ⅲ』(啓林館) 自作教材

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	パフォーマンステスト	25%
b. 思考・判断・表現	英語で読み取った内容について、情報や考えなどを整理し適切に伝えている。	パフォーマンステスト、定期考査	25%
c. 技能	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	パフォーマンステスト、定期考査	25%
d. 知識・理解	英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。	パフォーマンステスト、定期考査	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	4	世界の課題についてのリサーチ	国連発行の記事から世界の課題の概要を聞いたり読んだりして、理解する。			○	
	5	4	アジェンダ設定	世界の課題について、情報や考えを英語で話したり書いたりして伝える。その上で、今年度のアジェンダを決定する。	○	○		
	6	4	アジェンダのリサーチ&まとめ	設定したアジェンダについて、関連資料を英語で聞いたり読んだりして、理解する。 第1回考査			○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	12	アカデミックライティング	ポジションペーパーおよびパブリックスピーチにおいて必要な提携表現や文体、引用のルールやまとめ方に関する知識を学ぶ。				○
			ポジションペーパーの策定	アジェンダについて、自国の立場でポジションペーパーを英語で書く。		○		○
			パブリックスピーチ原稿の策定	自国に関する情報を紹介するパブリックスピーチ原稿を英語で書く。 (第2回考査は実施せず、レポート提出を課す)		○		○
後期	10 11 12	12	会議練習	ディスカッションやディベート、スピーチなどの活動を通して、自分の意見を英語で話して表現する。	○	○		
			模擬国連会議	模擬国連会議を通して、英語の4技能を統合的に練習し、決議案を英語で作成する。 第3回考査	○	○	○	○
	1 2	8	ふりかえり	3年間の振り返りを行うと共に、卒業後に向けて、自己の「現状と課題」を振り返り、それを英語でまとめる。	○	○		
【その他】 副教材の補充として必要に応じたプリント教材を使用する。								

年間指導計画表

教科・科目	国際理解・フランス語	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1)フランス語の発音とつづり字の読み方に習熟する。 (2)口語表現を理解し、より高度な会話表現の習得を目指す。 (3)外国語でのコミュニケーション能力を高めることで、積極性を培う。 (4)フランス及びヨーロッパの社会や文化への理解を図る。
使用教科書・副教材等	(1)自主作成プリント (2)inspire 1 (A1 cahier d'activités) (3)仏和辞典

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	授業を通して、フランス語やフランス文化に対する関心と理解を深めようとする。	ポートフォリオ トレーニング活動	20%
b. 思考・判断・表現	聞いたことをベースに推測し、自分なりの仮説を立て、適切に反応することができる。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	20%
c. 技能	正しい発音で、人物や事物について描写し、時制を変えて表現することができる。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	フランス語の音声的な特徴や文法を理解している。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	(1)自主作成プリント (2)inspire 1 (A1 cahier d'activités)	(1)地域と気候、天気に関する表現を学び、生活を取り巻く環境について話せるようになる。 (2)過去の出来事とその背景を語り、短い文章を作成することを学ぶ。 (3)総合テストを行い、学習内容を習得する。	○	○	○	○
						○	○	○
				第1回考査				

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	(1) 自主作成プリント (2) inspire 1 (A1 cahier d'activités)	(1) 基本的な形容詞及び色の表現を学び、人物や事物を描写する。 (2) 人物や事物についての意見とその理由を述べる表現を学ぶ。 (3) 動詞の単純未来形の意味を理解し、活用を学ぶ。 第2回考査	○	○	○	○
							○	○
後期	10 11 12	18	(1) 自主作成プリント (2) inspire 1 (A1 cahier d'activités)	(1) 人の発言や情報を伝える表現を学び、会話の中で用いることができるようにする。 (2) 総合テストを行い、学習内容を習得する。 (3) 授業を通して、フランスおよびヨーロッパの文化や社会に対する発展的な知識を身に付ける。 第3回考査	○	○	○	○
							○	○
	1 2	10	(1) 自主作成プリント (2) inspire 1 (A1 cahier d'activités)	一年間の学習事項の再確認をする。	○	○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	国際理解・中国語	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1)中国語の基礎を学び、発音とつづり字の読み方を習得する。 (2)口語表現を理解し、簡単な日常会話の習得を目指す。 (3)外国語でのコミュニケーション能力を高めることで、積極性を培う。 (4)中国の社会や文化への理解を図る。
使用教科書・副教材等	中国語つぎへの一步(白水社) 自作プリント

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	授業を通して、中国語や中国文化に対する関心と理解を深めようとする。	ポートフォリオ トレーニング活動	20%
b. 思考・判断・表現	中国語の勉強を通して、中国語の文法、中国人の考え方を理解することができる。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%
c. 技能	正しい発音で、自分や第三者について情報を与え、日常生活について。描写することができる。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	幅広い話題を通して、中国文化を深く理解する。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	20%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	ホテル、タクシー、買い物などのいろいろな場面で中国語でどのように表現するかなどについて、文法を分析しながら、実際の会話の練習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・一年次で勉強した内容を復習することと、時刻、年月日、ホテルの予約など、タクシー、買い物するときの表現を身につける。 ・苦情を訴えること、紛失届を出す場面の表現を身につける。 ・復習と総合練習を行う。 	○	○	○	○
					第1回考査	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	中国語の語彙、文法などについて指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・単語と文法を増やす。 ・総合練習を行う。 ・文章の書き方を学習する。 授業を通して、中国の社会、文化に対する発展的な知識を身に付ける。	○	○	○	○
			第2回考査				○	○
後期	10 11 12	18	2年間で学んだ内容を総合的に練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・中国で新しく出てきた新語、中国文化など 複文の種々の表現と作文、及び書類の作成を行う。	○	○	○	○
			第3回考査				○	○
	1 2	10	2年間で学んだ内容を総合的に練習する。	総合的に練習する。	○	○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	国際理解・韓国・朝鮮語	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 韓国・朝鮮語の発音と音読能力を高める。 (2) 口語表現を習得し、日常会話の習得を目指す。 (3) コミュニケーション能力を高め、韓国の姉妹校の生徒との交流等に積極的に参加する姿勢を育て、韓国の社会や文化、習慣などへの理解を深める。
使用教科書・副教材等	(1) 한국어2・韓国語2(TWO PONDS [주] 문진미디어) (2) 自主作成教材

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	授業を通して、韓国のいろいろな知識、韓国文化に関心と理解を深めようとする姿勢を深め、日本と朝鮮半島との友好と親善の歴史を正しく理解する。	ポートフォリオ トレーニング活動	20%
b. 思考・判断・表現	韓国語の基本的な文法を習得し、音読を人の前で出来る水準に高め、韓国人の考え方を理解することができる。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	20%
c. 技能	正しい発音で、自分や第三者について情報を与え、日常生活について、描写することができる。 スピーチ文を作成し、人の前で発表することができる。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%
d. 知識・理解	幅広い話題を通して、韓国文化を深く理解する。	トレーニング活動 小テスト 定期考査	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	(1)17課 簡単な対話 (2)18課 趣味 (3)19課 誕生日 (4)20課 旅行 (5)21課 物品購入	(1)N-이/에/요/예요表現・家族関係の表現 (2)S-아서/어서表現・拒絶の表し方 (3)V-(으)면서表現・自分の経験を表現する (4)慣用句形語尾-는・ㅁ変則活用 (5)補助形容詞V-고 싶다・ㄷ変則活用	○	○	○	○
					○	○	○	○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	(1)22課 週末計画 (2)23課 薬局 (3)24課 喫茶店 (4)25課 一日の日課 (5)26課 コーヒーショップ	(1)背景の連結語尾—는데・数量名詞 (2)推測表現A/V-(으)ㄹ까요・病状の表現 (3)能力・機能の補助動詞V-ㄹ 수가 없다 (4)N-인데、ㄹ 不規則活用 (5)N-인데, 奉仕の補助動詞V-아/어주다 第2回考査	○	○	○	○
								○
後期	10 11 12	18	(1)27課 夏休みの計画 (2)28課 計画 (3)29課 銀行 (4)30課 週末の生活	(1)進行の補助動詞 V-고 있다・故郷紹介 (2)未来事例V-(으)ㄹ 것이다・週末の計画 (3)感嘆計終結語尾V-는군요・丁寧な提案表現 (4)目的の連結語尾V (으)러 가다/오다 授業を通して、韓国・朝鮮の文化や社会に対する発展的な知識を身に付ける。 第3回考査	○	○	○	○
								○
	1 2	10	2年間で学んだ内容を総合的に練習する。	総合的に練習する。	○	○	○	○
【その他】								

令和4年度 ABLE Time (エイブル タイム) (総合的な探究の時間) 年間指導計画

広島市立舟入 高等学校 全日制 課程 (普通科普通)

実施学年 (3) 年

<p>学校において定める 目 標</p>	<p>(1) 自己の在り方生き方を考えながら、現代社会の問題を自己の問題としてとらえ、課題を発見し、「問い」を立て、よりよく課題を解決していくための資質・能力を育成する。</p> <p>(2) 共働的な活動を通じて、多面的な他者理解と自己の相対化を図り、「対話」の態度を養う。</p> <p>(3) 自己の思いや考えを、相手にわかりやすく発信する力を育てる</p>
<p>内 容</p>	<p>探 究 課 題 「まとめる」力・「伝える」力の育成</p> <p>育成を目指す 具体的な 資 質 ・ 能 力</p> <p>(1) 探究に必要なリテラシーや課題の発見や解決に必要な知識及び技能、探究の意義や価値の理解</p> <p>(2) 自分の興味関心に応じて課題を立て、情報収集やその整理、分析を通して、自分の結論を導く力及びそれらをまとめ・表現する力</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組む態度、多面的な他者理解と自己の相対化を通じた「対話」の態度</p>
<p>付与する単位数</p>	<p>1 単位</p>
<p>授業時数の配当方法</p>	<p>基本的に1単位を週ごとに割り振り実施する。 (但し、平和学習に関して、特定の期間・日時に集中的に行う場合もある。)</p>
<p>学 習 活 動</p>	<p>(1) 課題研究「まとめる」力の育成 (2年次までの探究活動の報告論文を英語で作成する)</p> <p>(2) 課題研究「伝える」力の育成 (作成した論文をもとに英語で相手に論旨を伝える)</p> <p>(3) 平和学習 (本校と広島の被爆について学び、人に伝えられるようになる)</p>
<p>教 材 の 使 用 等</p>	<p>自作教材</p>
<p>指導方法・指導体制</p>	<p>英語科による指導で、コース単位での共働的な学習活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションデザイン部において、指導計画および指導案を策定する。 ・英語科が指導計画および指導案を検討し、指導を行う。
<p>評価規準・評価方法</p>	<p>英語論文・ルーブリックシート・その他ワークシートにより、以下の規準で評価を行う。</p> <p>(1) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度が身に付いている。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己とのかかわりから問いを見出し、自分で課題を立てて、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</p> <p>(3) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な技能を身に付ける。</p> <p>(4) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識を身に付け、課題にかかわる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できる。</p>

単元	月	探究の過程	学習内容・学習活動	時数	学習形態 (場所)	各教科・特別活動等との関連・ 指導上の留意点等
読書体験の充実と平和学習	4月	まとめ・表現	★2年次の取り組み内容を研究論文として英語でまとめる ★世界を知り、考える ・平和について考える	14	HR 単位 (教室)	<ul style="list-style-type: none"> 適切なフォーマットに基づいて、英語で自分の探究の取り組みをまとめることができるようにする まとめたものを他に説明することができるようにする 被爆の実相や核兵器廃絶に向けた国際社会の取り組みを理解し、平和な社会の実現に向けて自分たちのできることを考えるように指導する
	5月					
	6月					
	7月					
	8月					
世界を知り考える	9月	課題の設定	★卒業後、探究したい問いを1つ立てる	10	HR 単位 (教室)	<ul style="list-style-type: none"> 他との協同の中で、生徒一人一人が新たな「問い」を手に入れるように指導する 自分の関連分野の情報を、機械翻訳を用いながら英語で収集するように指導する 選んだ論文を機械翻訳を使いながら適切に読み、情報を手に入れるように指導する その結果、新しい「価値観」や「見方・考え方」を自分の関連分野に関して手に入れるように指導する
	10月	情報の収集1	★自分の関連分野の英語論文を選ぶ			
	11月	情報の収集2	★選んだ論文を読んでいく			
	12月					